

AudioGate

取扱説明書

AudioGate 4

KORG

目次

はじめに	3	録音機器の設定	23
画面の切り替えと各部の名称	4	録音ファイルの設定	24
プレーヤー画面	4	録音手順	27
編集 / 録音画面	4	ソングの編集	28
ソングリストについて	5	カレント・ソングの編集	28
マスター・ボリューム / 入力レベルについて	5	テキスト情報の編集	28
レベル・メーター / クリップ・インジケータについて	5	添付画像の変更	28
ピーク・ホールドの保持時間を変更する	5	コントロール情報の編集	29
ピーク・ホールド表示をクリアする	6	ソング情報の一括変更	30
AudioGate に関する各種情報	6	複数ソングのソング情報の一括変更	32
ライブラリの作成	7	ソングの分割	33
ソングの登録	7	ソングの結合	34
MR プロジェクトの登録	7	チャンネル・リンク機能	35
オーディオ・ファイルの登録	8	ノーマライズ機能	36
iTunes のソングの登録	8	マーク機能	36
録音されたソングの登録	8	マークの読み込み	36
ソングの選択	9	マークの書き出し	36
ソングの削除	9	マークの編集	37
ソングの並び替え(ソート)	9	その他の便利な機能	38
プレイリストの作成	10	編集の取り消し(アンドゥ)	38
新しいプレイリストを作る	10	編集の再実行(リドゥ)	38
ソングを選んで新しいプレイリストを作る	11	オーディオ・フォーマットの変換出力	39
プレイリスト内のソングの並び替え(ソート)	11	オーディオ・ファイルのエクスポート	39
プレイリストの削除、エクスポート、ディスク書き込み	11	詳細設定	43
ソングの再生	12	オーディオ CD/DSD ディスクの作成	47
ソングの再生方法	12	詳細設定	51
使用可能なコントローラー	13	オート・アップデート機能	52
ビューワー上部の表示内容	14	アップデートを手動で確認する	52
ダイレクト・ロケート機能	15	アップデートを自動的に確認する	53
リピート再生機能	15	その他の設定	54
シャッフル再生機能	15	一時ファイルを作成するフォルダーを変更する	54
オーディオ・デバイスの設定	16	すべてのダイアログの警告をリセットする	54
サンプリング周波数自動設定機能	17	リアルタイム変換処理を確認する	55
1bitDSD ダイレクト出力	18	背景の切り替え	55
再生音量の自動調節機能	19	対応フォーマット	57
オーディオ CD/DSD ディスクの再生	20	対応ファイル・フォーマット	57
ディスクの取り出し	20	対応ディスク・フォーマット	58
録音	21	ショートカット一覧	60
使用可能なコントローラー	21		
ビューワー上部の表示内容	22		

はじめに

コルグAudioGate - HIGH RESOLUTION MUSIC PLAYER は1bitオーディオにも対応した高機能オーディオ・プレイヤー/レコーダー&フォーマット変換アプリケーションです。

AudioGateはコンピューター内の異なるフォーマットのオーディオ・ファイルを管理、再生することができ、コルグDS-DACシリーズなどの指定されたオーディオ機器を用いることで、1bitオーディオ・ファイルのダイレクト再生、アナログ信号の1bitでのダイレクト録音に対応しています。

また、コルグMRシリーズで録音したMRプロジェクトや他の様々なオーディオ・ファイルを、任意のフォーマットに変換して出力したり、オーディオCDやDSDディスクを作成することができます。さらに、カットやフェード、ノーマライズなどの多彩な編集機能もサポートしています。

なお、AudioGateでは、ソングリスト上のオーディオ・データをソングと呼びます。

画面の切り替えと各部の名称

AudioGateのほとんどの操作はビューワー上で行います。このビューワーは一般的なフレームの様に自由に大きさを変えることができます。なお、ビューワーはエディット・ボタンをクリックするたびに、プレーヤー画面と編集/録音画面に切り替わります。

メニュー・ボタンをクリックして[表示] - [表示の切り替え]を選択して切り替えることもできます。

プレーヤー画面



編集/録音画面



ソングリストについて

ソングリストにはライブラリ(7ページ)、またはプレイリスト(10ページ)に登録されているソング(オーディオ・ファイル)の情報が表示されます。ソングリストの表示切り替えはサイドバー表示ボタンをクリックして選択します。

マスター・ボリューム/入力レベルについて

AudioGateはソングごとのゲイン設定(29ページ)とは別にオーディオ・プレーヤーとして、再生する音量を調整できます。また、DS-DAC-10Rを接続している場合は入力・モニター設定時および録音時(一時停止を含む)にINPUTと表示され、DS-DAC-10Rのアナログ入力レベルを調整できます。

いずれの場合も、マスター・ボリューム/入力レベル・スライダを上下にドラッグすることで調整します。

入力・モニター設定について

停止時に入力・モニター設定ボタンをクリックすることにより、録音時と同様に入力デバイスの音声をモニターすることができます。もう一度ボタンをクリックすると入力・モニター設定が解除されます。

レベル・メーター/クリップ・インジケータについて

AudioGateのレベル・メーターは、ソングの再生時、およびエクスポート時はサンプリング周波数変換後の出力データのピーク値を表示します。

また、入力・モニター設定時および録音時(一時停止を含む)は録音入力信号のレベル・メーターになります。このときNu IまたはDS-DAC-10Rを使用し、録音設定で録音用フォノ・イコライザを選択している場合は、フォノ・イコライザを通った後のレベルが表示されます。

入力オーディオ信号のレベルが高すぎると、クリッピングが発生してサウンドに悪影響を及ぼす可能性があります。この場合はクリップ・インジケータが点灯しますので、入力レベルを再調整するか、オーディオ・ソースの出力レベルを調整してください。なお、クリップ・インジケータは編集/録音画面でのみ表示されます。

ピーク・ホールドの保持時間を変更する

AudioGateのレベル・メーター/クリップ・インジケータにはピーク・ホールド機能が搭載されています。以下の手順でこの保持時間を変更することができます。

1. レベル・メーター部を右クリック(Macの場合はcontrol+クリック)します。
2. [レベル・メーターのピーク保持時間]または[クリップ・インジケータのピーク保持時間]を選択し、保持時間の一覧の中から最適なものを選択します。

メニュー・ボタンをクリックして[表示] - [レベル・メーターのピーク保持時間]または[クリップ・インジケータのピーク保持時間]で選択することもできます。



ピーク・ホールド表示をクリアする

レベル・メーター動作中に、レベル・メーター部をクリックすることで、設定した保持時間を待たずにレベル・メーター/クリップ・インジケータのホールド表示をクリアすることができます。

AudioGateに関する各種情報

メニュー・ボタンをクリックして[ヘルプ]からAudioGateに関する各種情報を確認することができます。

ライブラリの作成

AudioGateのライブラリにコンピューター内のMRプロジェクトやオーディオ・ファイルを登録することでAudioGateで再生したり、任意のフォーマットに変換して出力することができます。

なお、AudioGateでは、ソングリスト上のオーディオ・データをソングと呼びます。

note AudioGate のライブラリにソングを登録するとファイルのコピーが作成されるのではなく、ファイルの情報がライブラリに登録されます。

▲ 多くのソングを一度に登録するとソングリストに表示されるのに時間がかかります。またソング波形表示は登録時に解析する時間が必要なため、ソング波形表示がバーのままの時間が長くなります。

ソングの登録

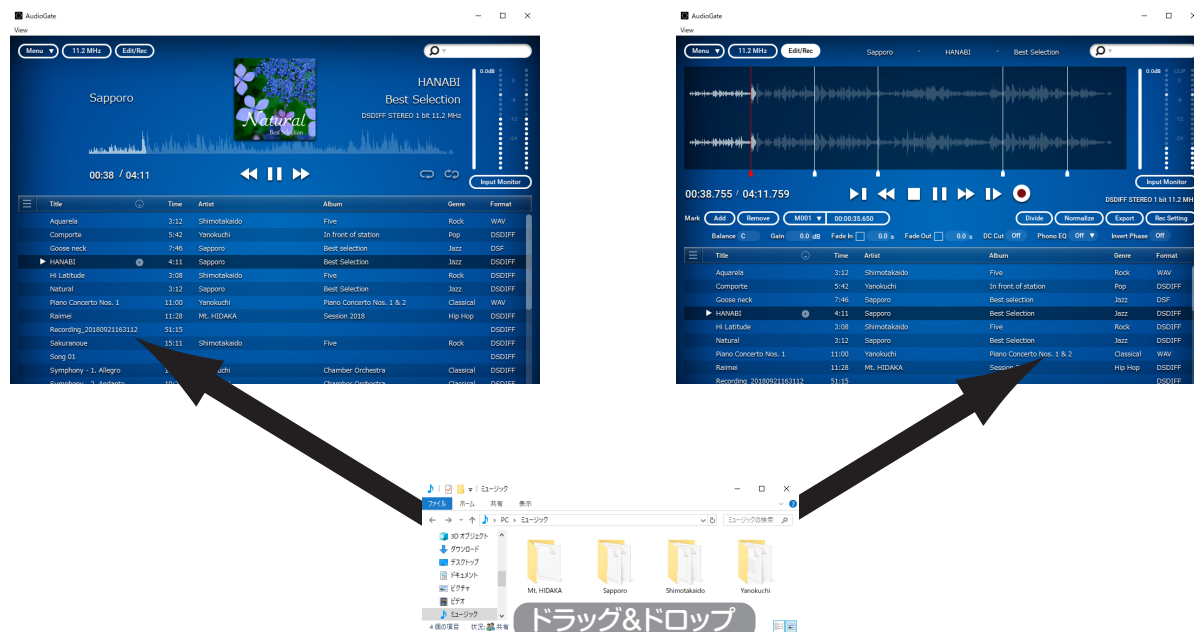
MRプロジェクトの登録

コルグMRシリーズで録音したプロジェクトを登録することができます。

MRシリーズで録音したデータのオーディオ・ファイルだけを登録することもできますが、MRプロジェクトを登録することで、録音時に追加したマークを読み込んだり、オーディオ・ファイルが分割されていても自動的に結合して、1つのソングとして扱うことができます。

- 登録したいMRプロジェクトを、MRプロジェクト・フォルダーごとソングリストにドラッグ&ドロップします。メニュー・ボタンをクリックして[ファイル] - [オーディオ・ファイルを追加...]でフォルダーに含まれる.prjファイルを選択することもできます。
- ライブラリのソングリストが表示されているときは、MRプロジェクトがライブラリにソングとして登録されます。選択されたプレイリストのソングリストが表示されているときには、プレイリストに登録すると同時に、ライブラリにも登録されます。

note AudioGateのライブラリに登録しただけでは、ファイルはバック・アップされません。コルグMRシリーズで録音したプロジェクトは、あらかじめコンピューター内のハードディスクにコピーしておくことをお勧めします。



オーディオ・ファイルの登録

オーディオ・ファイルを、ソングとして登録することができます。登録可能なソングはAudioGateがインポートできるオーディオ・ファイルです(4ページ)。

- 登録したいオーディオ・ファイルを、ソングリストにドラッグ&ドロップします。

メニュー・ボタンをクリックして[ファイル]－[オーディオ・ファイルを追加...]で行うこともできます。

ライブラリのソングリストが表示されているときは、オーディオ・ファイルがライブラリにソングとして登録されます。選択されたプレイリストのソングリストが表示されているときには、プレイリストに登録すると同時に、ライブラリにも登録されます。

note ライブラリのソングリストが表示されているときには、すでに登録されているソングを重複して登録することはできません。ドラッグ&ドロップをしても無視されます。

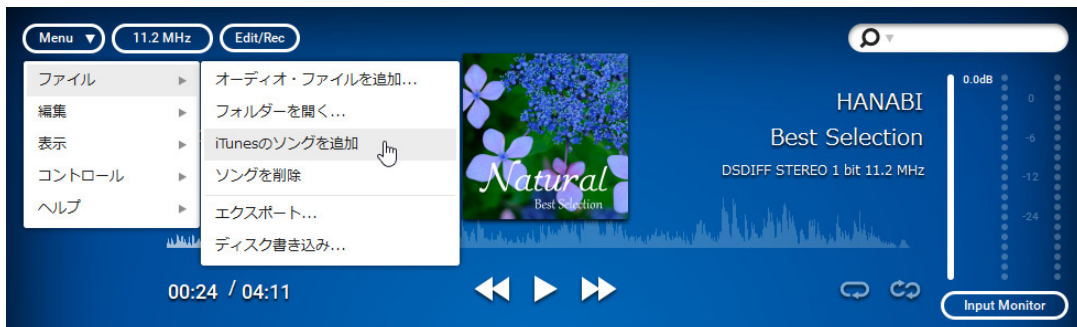


iTunesのソングの登録

iTunesのソングを登録することができます。

- メニュー・ボタンをクリックして[ファイル]－[iTunesのソングを追加]を選択します。
- ライブラリにソングが登録されます。

note [iTunesのソングを追加]をするたびに、iTunesライブラリに新規に追加されたソングのみが、ライブラリに登録されます。すでに登録済みのソングが2重に登録されることはありません。



録音されたソングの登録

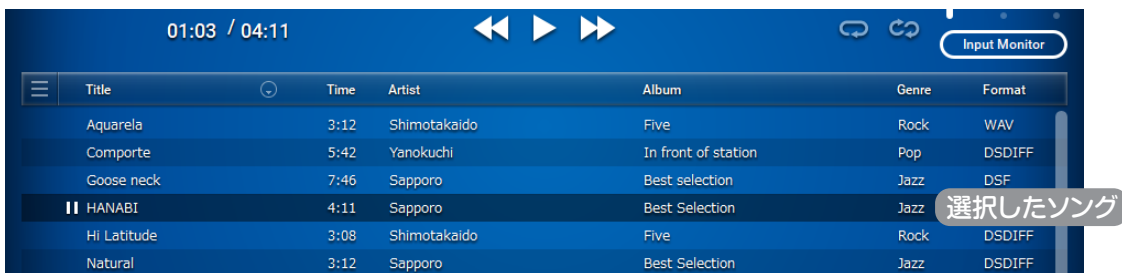
録音されたソングは録音を停止した時点で、ソングとなり選択され、自動的にライブラリとプレイリスト(Recording)に登録されます。

ソングの選択

ソングリスト上のソングをクリックします。

Ctrlキー (Macの場合はCommandキー) を押しながらクリックすることで、複数のソングを選択することもできます。

選択中のソングは強調表示されます。



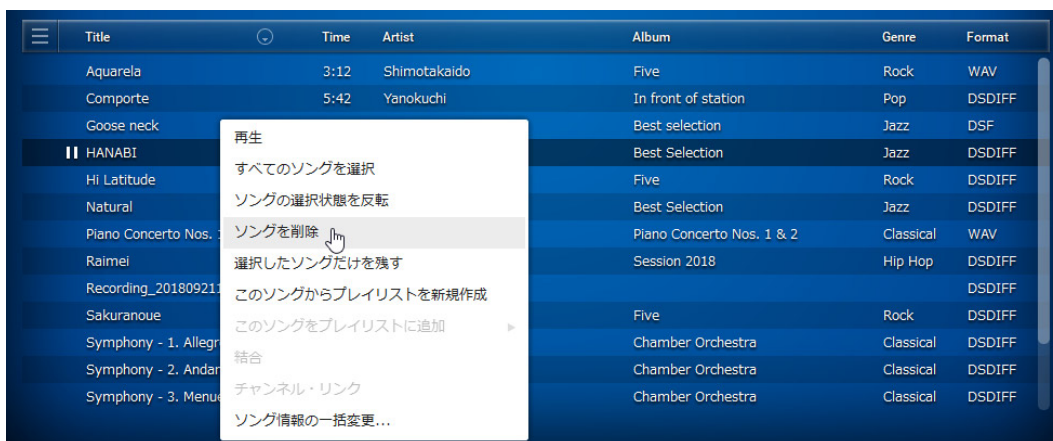
ソングの削除

対象となるソングにカーソルを合わせTitleの右側に表示されるコンテキスト・メニュー・アイコンをクリックして[ソングを削除]を選択します。

メニュー・ボタンをクリックして[ファイル] - [ソングを削除]を選択することもできます。

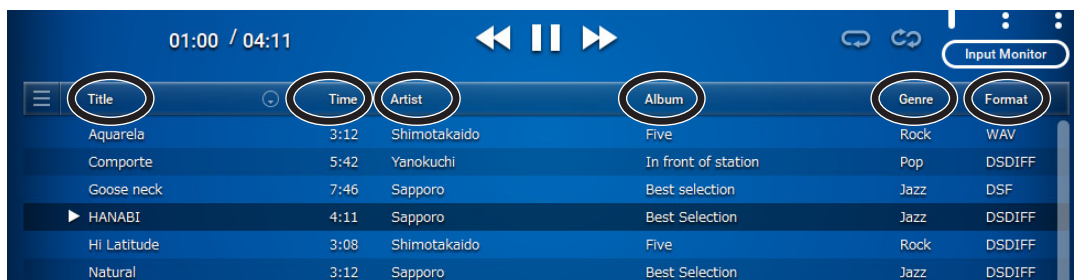
note Windowsでは右クリック、Macの場合はcontrol+クリックして[ソングを削除]を選択することもできます。

ライブラリのソングを削除すると、プレイリストからもそのソングは削除されます。なお、プレイリストのソングを削除しても、ライブラリからそのソングは削除されません。



ソングの並び替え(ソート)

ソングリストでは、リストの最上段のTitle、Time、Artist、Album、Genre、Formatの項目を選択することでソングを並び替えることができます。クリックするたびにアルファベット順で昇順、降順に並び替ります。



プレイリストの作成

AudioGateのライブラリから、好きなソングを集めたり、テーマにそって集めたりしたオリジナルのプレイリストを作成することができます。

ここで作成したプレイリストはライブラリと同じようにソングの追加、選択、削除、並び替えができます。

note ライブラリに登録されていないソングをプレイリストへ登録すると、ライブラリにも同時に登録されます。

! プレイリスト上で編集したソング情報は、ライブラリ上のソングに反映されるため、複数のプレイリストに使用しているソングは全て同様に編集されます。

新しいプレイリストを作る

1. ソングリストの左端上のサイドバー表示ボタンをクリックします。



2. プレイリスト・バーが表示されるので右端の+ボタンをクリックします。

「Playlist」という名前のプレイリストができます。名前を変更しない場合は、2回目以降の新しいプレイリストの名前は、「Playlist n (nは1から始まり自動的に増加する番号)」になります。

3. プレイリストの名前を変更するときは、名前部分をクリックして変更し、Enterキーを押して確定します。名前が確定すると昇順にソートされます。

4. プレイリスト・バーの上のLibraryをクリックしてライブラリに登録されているソングを表示させます。

5. ライブラリのソングを選択してサイドバーに表示されているプレイリストにドラッグ&ドロップして登録します。

Ctrlキー (Macの場合はCommandキー) を押しながらかlickすることで、複数のソングを選択することもできます。

選択中のソングにカーソルを合わせTitleの右側に表示されるコンテキスト・メニュー・アイコンをクリックして[このソングをプレイリストに追加]を選択して登録することもできます。

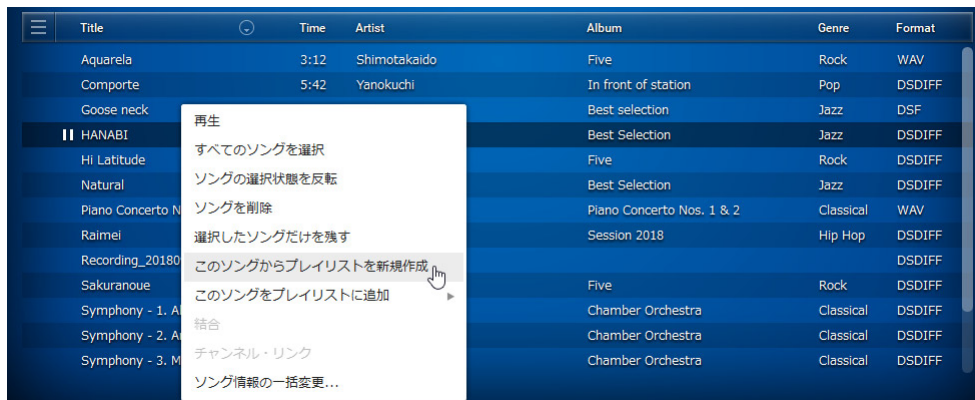
note Windowsでは右クリック、Macの場合はcontrol+クリックして[このソングをプレイリストに追加]を選択して登録することもできます。

6. プレイリスト・バーの下に表示されているプレイリストを選択すると、登録されているソングがソングリストに表示されます。

ソングを選んで新しいプレイリストを作る

ソングリスト上の対象となるソングにカーソルを合わせTitleの右側に表示されるコンテキスト・メニュー・アイコンをクリックして[このソングからプレイリストを新規作成]を選択します。

note Windows では右クリック、Mac の場合は control+ クリックして [このソングからプレイリストを新規作成] を選択して登録することもできます。



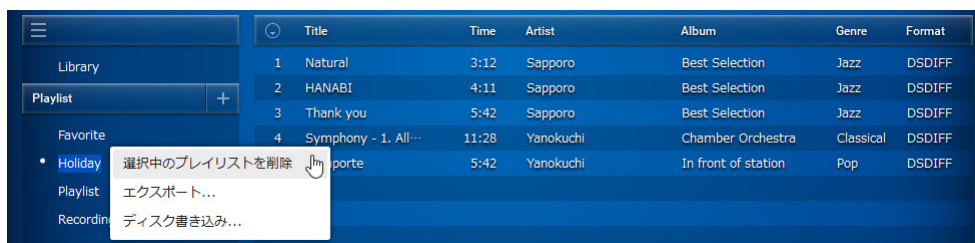
プレイリスト内のソングの並び替え(ソート)

プレイリストではライブラリのソングリストと同じようにソングを並び替える(9ページ)ことができます。さらにプレイリストでは、ソングを選ぶとソングのドラッグができるようになり、任意の順番でソングを並べ替えることもできます。

プレイリストの削除、エクスポート、ディスク書き込み

プレイリストを選んで、右クリック(Macの場合はcontrol+クリック)で削除、エクスポート(39ページ)、ディスクの作成(47ページ)を選択します。

note プレイリストを削除してもそのプレイリスト内のソングの登録情報が削除されるだけで、ライブラリや他のプレイリストのソングは削除されません。



ソングの再生

AudioGateでは、ソングリストに登録しているソングを再生することができます。1bitオーディオ・ファイルを含む各フォーマットのソングを一律のサンプリング周波数で再生したり、ファイルの内容確認や編集ポイントの設定(36ページ)をしたりするときに便利です。

▲ AudioGateのソング再生機能は、高速フィルターによる簡易再生と1bitDSDダイレクト出力をサポートしています。1bitオーディオ本来の音質は、コルグDS-DACシリーズや指定されたUSBオーディオ機器または、コルグMRシリーズなど1bitオーディオ対応機器でお楽しみください。

note AudioGateでは、再生中(または再生待機中)のソングを「カレント・ソング」と呼んでいます。カレント・ソングは、タイトルの左に再生/一時停止アイコンが表示され、ビューワーの上部にアーティスト名、タイトル、アルバム名が表示されます。またカレント・ソング内の現在位置を「カレント・ポジション」と呼び、時間情報に表示されます(14ページの「ビューワー上部の表示内容」を参照)。

ソングの再生方法

ソングリスト上のソングをダブルクリックしてカレント・ソングを変更します。自動的に再生が開始されます。

note 音が出ない、音飛びが頻発するなど、ソングの再生がうまくいかない場合は、16ページの「オーディオ・デバイスの設定」を確認してください。



使用可能なコントローラー

ソングの再生には以下のコントローラーを使用することができます。
メニュー・ボタンをクリックして[コントロール]で選択することもできます。

プレーヤー画面



編集/録音画面



コントローラー名	動作
再生/一時停止ボタン	カレント・ソングの再生/一時停止を切り替えます。
停止ボタン	カレント・ソングの再生を停止し、再生ポイントがソングの先頭に移動します。
送りボタン(FF)	カレント・ポジションを次のマーク位置に変更します。次のマークがない場合は、カレント・ソングをソングリスト上の次のソングに変更します。長押しすると再生ポイントを連続して先に進めることができます。
戻りボタン(REW)	カレント・ポジションを前のマーク位置に変更します。前のマークがない場合は、ソングの先頭に移動します。長押しすると再生ポイントを連続して前に戻すことができます。
ここまでボタン(To)	一時停止中にクリックすると、カレント・ポジションまでの2秒間を再生します。
ここからボタン(From)	一時停止中にクリックすると、カレント・ポジションからの2秒間を再生します。
再生ポイント	ソング波形の色が反転しているところが現在の再生ポイントになります。ソング波形表示上の移動したいポイントでクリックしたり、左右にドラッグして、再生ポイントを変更することもできます。

note 録音ボタンは再生では使用しません。

ビューワー上部の表示内容

ビューワー上部にはカレント・ソングの情報が表示されます。



項目	内容
オーディオ・デバイスのサンプリング周波数	オーディオ・デバイスのサンプリング周波数が表示されます。カレント・ソングはこの周波数にリアルタイム変換されて再生されます。
アーティスト	カレント・ソングのアーティスト名が表示されます。
タイトル	カレント・ソングのタイトルが表示されます。
アルバム	カレント・ソングのアルバム名が表示されます。
検索窓	検索できるのはAll、Title、Artist、Albumです。 検索窓の左にある虫メガネ・マークをクリックして選択した項目で検索を行います。 Allを選択した場合は、Title、Artist、Albumすべての項目から検索します。 ソングリストに該当項目がある場合は、該当するソングが表示されます。
フォーマット	カレント・ソングのファイル・フォーマット、チャンネル数、サンプリング周波数、量子化ビット数が表示されます。「量子化ビット数」のアイコンは、非可逆圧縮ファイル再生時には、「ビットレート」(128kbpsなど)の表示になります。
時間情報	カレント・ポジション時間とカレント・ソング全体の時間が表示されます。

ダイレクト・ロケート機能

編集画面時にカレント・ポジションをキーボードから直接指定することができます。

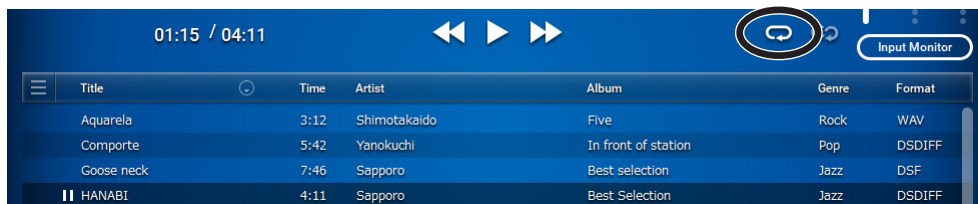
1. ソングの再生中、または停止中に、時間情報をクリックします。
2. カウンタが編集可能状態となるので、キーボードから「2:30」など新たなカレント・ポジションを指定します。
「2:30」→「230」、「12:04」→「1204」のようにコロン(:)を省略して入力することもできます。



3. キーボードのENTERキーを押します。
カレント・ポジションが移動したことが確認できます。

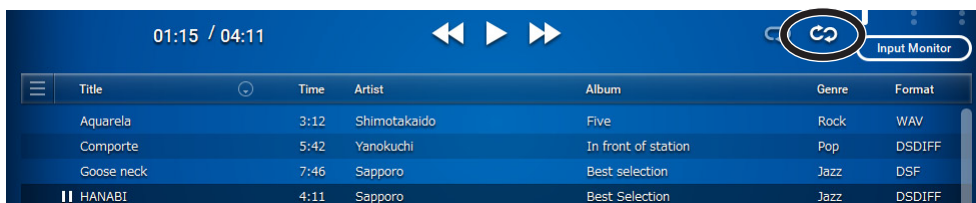
リピート再生機能

クリックするたびにリピート、カレント・ソングのリピート、リピートなしに切り替わります(プレーヤー画面のみ)。



シャッフル再生機能

クリックするたびにシャッフル再生する、しないが切り替わります(プレーヤー画面のみ)。



オーディオ・デバイスの設定

オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックすると、オーディオ・デバイスの設定を変更することができます。

ソングの再生が正常に行われない場合は、各項目が適切に設定されているか再度確認してください。なお、メニュー・ボタンをクリックして、[編集] - [環境設定] を選択してオーディオ・デバイスの設定を表示することもできます。

note 1bitオーディオ・ファイルをダイレクト出力再生する場合や、PCMオーディオ・ファイルを1bitにリアルタイム変換して再生する場合には、高速なCPUが必要です。

再生時に音飛びや雑音が頻発に発生する場合は、バッファ・サイズを調整することでパフォーマンスを改善できる場合があります。また録音時にはCPU負荷の影響で発生するエラーを防ぐため、最大に設定することをおすすめします。



note 録音に使用する入力デバイス、録音時のサンプリング周波数はここで設定します。

コルグ製品出力デバイス/入力デバイス

ドライバーの種類	出力デバイス名/入力デバイス名*	対応コルグ製品名
ASIO (Win)	KORG Ex ASIO Driver	Nu I
	KORG 2ch 1bit Audio Device	DS-DAC-10R
	KORG USB Audio Device Driver	DS-DAC-100, DS-DAC-100m, DS-DAC-10
Core Audio (Mac)	KORG Ex Audio Device	Nu I
	KORG 2ch 1bit Audio Device	DS-DAC-10R
	KORG USB Audio Device Driver	DS-DAC-100, DS-DAC-100m, DS-DAC-10

* DS-DAC-100、DS-DAC-100m、DS-DAC-10は入力デバイスに設定できません。

note [サンプリング周波数] を2.8MHz、5.6MHz、11.2MHzに設定しても、1bit オーディオ・ファイルはリアルタイム変換されず、ファイルのそのままのサンプリング周波数(2.8MHz、5.6MHz、11.2MHz)で再生されます。

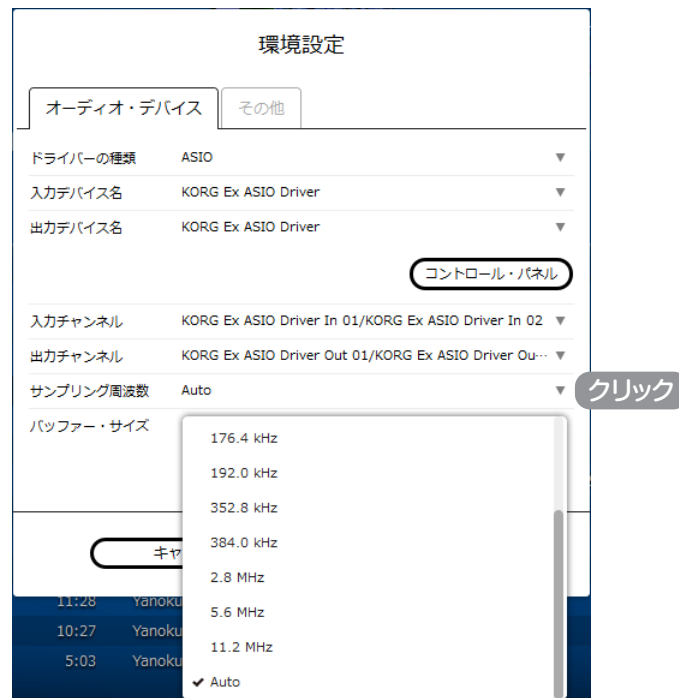
ただし、ソングのサンプリング周波数がデバイスで非対応の場合は、デバイスのPCMのサンプリング周波数の最大値に、最適なアルゴリズムでリアルタイムに変換されて再生されます。

サンプリング周波数自動設定機能

ソングのサンプリング周波数に合わせて、デバイスのサンプリング周波数を自動で切り替えることができます。

1. オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。
メニュー・ボタンをクリックしてから [編集] – [環境設定] を選択して表示することもできます。
2. [オーディオ・デバイス] タブをクリックします。
3. [サンプリング周波数] の [Auto] を選択します。

note ソングのサンプリング周波数がデバイスで非対応の場合は、デバイスの PCM のサンプリング周波数の最大値に、最適なアルゴリズムでリアルタイムに変換されて再生されます。



1bitDSDダイレクト出力

DSDIFF、DSF、WSDフォーマットの1bitオーディオ・ファイルをPCMに変換することなく直接出力することができます。

note 本機能はコルグNu1、DS-DACシリーズなどコルグ認定のオーディオ機器でのみご利用いただけます。
対応機器については以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.korg.com/products/audio/audiogate4/>

オーディオ機器をコンピューターに接続した状態で下記手順を行ってください。

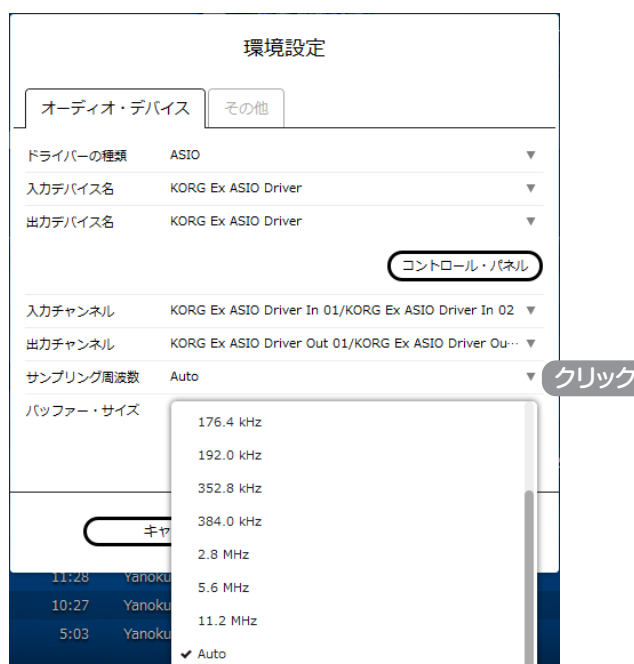
1. **オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。**
メニュー・ボタンをクリックしてから[編集] - [環境設定]を選択して表示することもできます。
2. **[オーディオ・デバイス]タブをクリックします。**
3. **[ドライバーの種類]の[ASIO] (Macの場合は[CoreAudio])を選択します。**



4. **[出力デバイス名]から使用するオーディオ・デバイスを選択します。**

5. **[サンプリング周波数]のAutoを選択します。**

note コルグDS-DACシリーズで、非対応の11.2MHzのファイルを再生した場合は、192kHz(デバイスのPCMのサンプリング周波数の最大値)に、リアルタイムで最適なアルゴリズムに変換されて再生されます。



6. **ソングリストでDSDIFF、DSF、WSDフォーマットのソングを選択し再生します。**

再生音量の自動調節機能

ソングリストのソングを再生するときに、すべてのソングの音量を自動調節して、ほとんど同じ音量で聴くための機能です。なお、この機能は再生時のみ機能するもので、オーディオ・ファイル自体のゲインを調節するものではありません。

1. **オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。**
メニュー・ボタンをクリックしてから[編集] - [環境設定] を選択して表示することもできます。
2. **[その他] タブをクリックします。**
3. **[再生音量の自動調節] で設定を選択します。**
なし:再生音量の自動調節を行いません。
ソングごと:ソングごとに再生音量を調節します。
アルバムごと:アルバム内のソング間のバランスを保持しながら再生音量を調節します。



オーディオCD/DSDディスクの再生

オーディオCD/DSDディスク上の各トラックを、ライブラリに登録されているのと同じようにソングとして再生することができます。

再生の方法については「ソングの再生」を参照してください。

▲ DVD非対応のドライブでは、DSDディスクを認識できません。

1. コンピューターのCD/DVDドライブにディスクを挿入します。

別ウィンドウ(別アプリケーション)が表示された場合は、そのウィンドウを閉じて終了します。

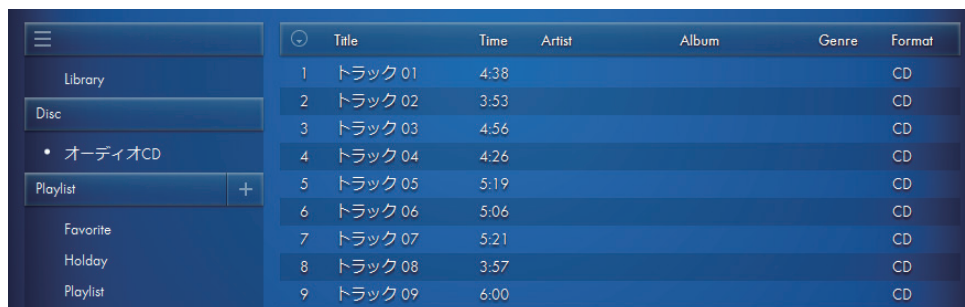
▲ しばらく待っても認識されない場合は、ドライブがコンピューターにきちんと接続されているか、挿入したディスクに問題がないか確認してください。

2. サイドバーを表示していないときはサイドバー表示ボタンをクリックします。

3. サイドバーにDiscバーが追加されるので、表示された「オーディオCD」(または「DSDディスク」)をクリックします。

ディスクのソング一覧がソングリストに表示されます。

このときライブラリには追加されません。



	Title	Time	Artist	Album	Genre	Format
1	トラック 01	4:38				CD
2	トラック 02	3:53				CD
3	トラック 03	4:56				CD
4	トラック 04	4:26				CD
5	トラック 05	5:19				CD
6	トラック 06	5:06				CD
7	トラック 07	5:21				CD
8	トラック 08	3:57				CD
9	トラック 09	6:00				CD

note ドライブに挿入したオーディオCDにCD-TEXT情報が埋め込まれている場合や、DSDディスクにID3v2.3情報が埋め込まれている場合は、トラックのタイトルがソングのタイトルとして使用されます。

▲ オーディオCD/DSDディスク上の各トラックを、オーディオ・ファイルとして保存する場合は、コンピューター内の任意のフォルダーにエクスポートします。これをプレイリストに登録したり編集するためには、ライブラリに登録する必要があります(7ページの「ソングの登録」を参照)。

ディスクの取り出し

ディスクを選んで、右クリック(Macの場合はcontrol+クリック)でディスクの取り出しを選択します。または、メニュー・ボタンをクリックして、[コントロール] - [ディスクの取り出し]を選択します。

録音

AudioGateではNu IまたはDS-DAC-10Rを接続して、アナログ信号を1bitおよびPCMで録音することができます。

以下にNu IまたはDS-DAC-10Rを使用した録音について説明します。

note Nu IまたはDS-DAC-10R以外で録音する場合は、使用する機器により録音フォーマットの制限があります。

録音が正常に行われえない場合は、サンプリング周波数の表示部をクリックして、各項目が適切に設定されているか再度確認してください。なお、メニュー・ボタンをクリックして、[編集] - [環境設定] を選択してオーディオ・デバイスの設定を表示することもできます。

多くのソングを録音するときは、メディアの残量に注意してください。

録音できるフォーマットについては57ページの「対応フォーマット」を参照してください。

使用可能なコントローラー

ソングの録音には編集/録音画面の以下のコントローラーを使用することができます。

メニュー・ボタンをクリックして[コントロール]で選択することもできます。

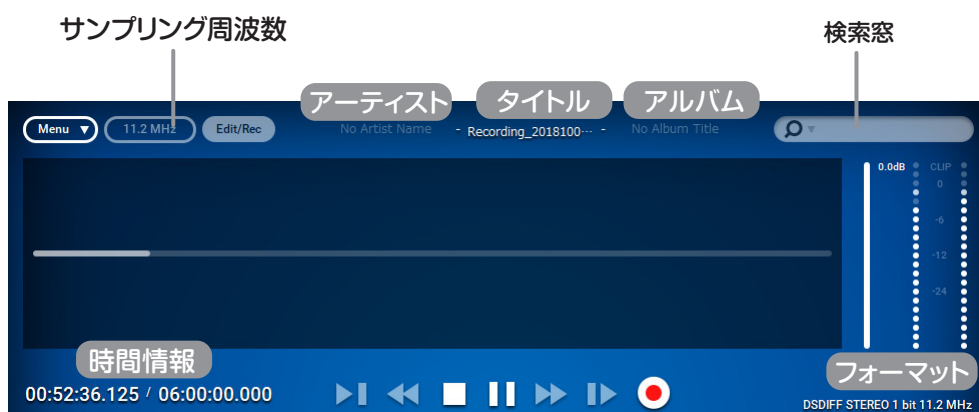


コントローラー名	動作
再生/一時停止ボタン	録音中にクリックすると一時停止し、再度クリックすると録音を再開します。一時停止しても停止ボタンを押すまでは同じファイルに録音されます。
録音ボタン	クリックすると録音を開始しボタンが点灯します。録音中に再生/一時停止ボタンをクリックすると録音ボタンは点滅にかわり録音待機状態になります。
停止ボタン	録音待機状態の解除、および録音を停止するときにクリックします。
録音バー	録音中はバーの白く表示された部分が右側に伸びます。右側に行き着くと再び左側から表示します。

note 録音中はTo、REW、FF、Fromボタンが使用できません。

ビューワー上部の表示内容

ビューワー上部には録音中のソングの情報が表示されます。



項目	内容
サンプリング周波数	録音中のサンプリング周波数が表示されます。アナログ信号がこの周波数に変換されて録音されます。
アーティスト	録音待機時にアーティスト名を設定できます。
タイトル	録音待機時にソングのタイトルを設定できます。
アルバム	録音待機時にアルバム名を設定できます。
フォーマット	録音中のファイル・フォーマット、チャンネル数、サンプリング周波数、量子化ビット数が表示されます。録音用フォノ・イコライザーが選択されている場合は、フォノ・イコライザー・カーブも表示されます。
時間情報	録音経過時間と録音時間が表示されます。 録音時間は直接編集することができ、この時間が経過すると録音が停止します。録音時間は録音設定でも設定できます(24ページの「録音ファイルの設定」を参照)。

録音機器の設定

録音に使用する機器をコンピューターに接続した状態で、AudioGateの設定を行ってください。

1. オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。
メニュー・ボタンをクリックしてから[編集] - [環境設定]を選択して表示することもできます。



2. [オーディオ・デバイス]タブをクリックします。
3. [ドライバーの種類]の[ASIO] (Macの場合は[CoreAudio])を選択します。
4. [入力デバイス名]に録音入力に使用するオーディオ・デバイスを選択します。
5. [出力デバイス名]に再生に使用するオーディオ・デバイスを選択します。
ASIOの場合は入出力に別々のデバイスを設定することはできません。
6. [サンプリング周波数]に録音のサンプリング周波数を選択します。
[Auto] の場合は録音する前に再生していたソングのサンプリング周波数になります。

note 1bitで録音する場合は入力デバイスと出力デバイスに同一機器を設定してください。

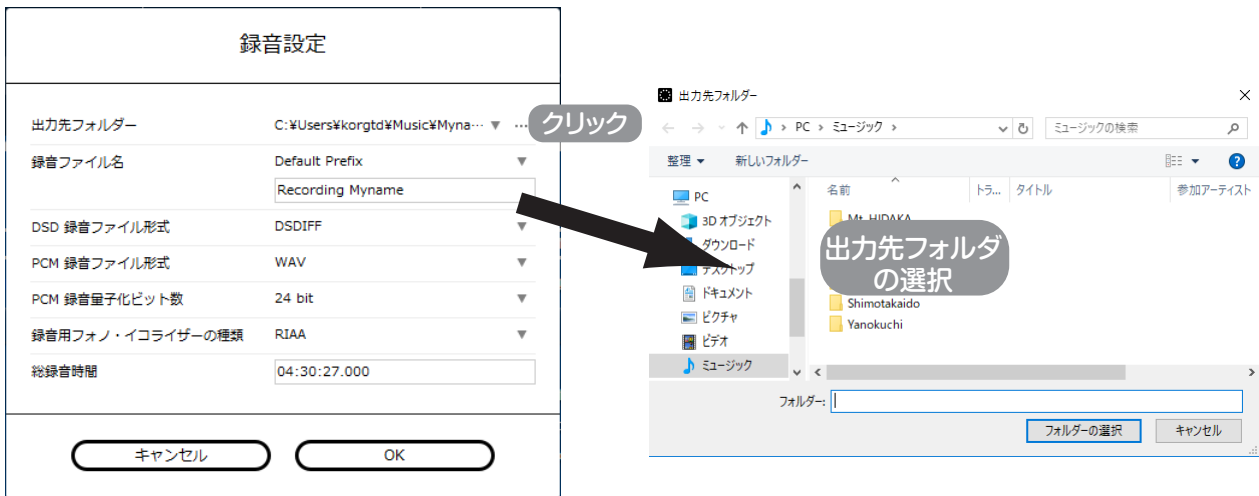
録音ファイルの設定

Nu またはDS-DAC-10Rから入力したアナログ信号を録音するファイルについて設定します。

1. 編集/録音画面で、Rec Settingボタンをクリックします。
録音ファイルの設定画面が表示されます。



2. 出力先フォルダーの[...]をクリックして、録音ファイルの出力先フォルダーを指定します。



3. 録音ファイル名のプリフィックス(ファイル名の先頭の文字列)を決めます。
Default Prefixを選択した場合はファイル名の先頭が“Recording_”となり、User Prefixを選択した場合は“Recording”の部分の文字列を自由に設定できます。
4. 2.8MHz、5.6MHz、11.2MHz(1bit)で録音する場合のオーディオ・ファイル形式を選択します。
録音ファイルはステレオ・ファイルとして作成されます。



5. 44.1kHz ~ 384kHzで録音する場合のファイル形式と量子化ビット数を設定します。

録音ファイルはステレオ・ファイルとして作成されます。

録音設定	
出力先フォルダー	C:\Users\korgtd\Music
録音ファイル名	Default Prefix Recording
DSD 録音ファイル形式	DSDIFF
PCM 録音ファイル形式	WAV
PCM 録音量子化ビット数	WAV
録音用フォノ・イコライザーの種類	BWF AIFF
総録音時間	
キャンセル OK	

録音設定	
出力先フォルダー	C:\Users\korgtd\Music
録音ファイル名	Default Prefix Recording
DSD 録音ファイル形式	DSDIFF
PCM 録音ファイル形式	WAV
PCM 録音量子化ビット数	24 bit
録音用フォノ・イコライザーの種類	1 bit 16 bit 24 bit 32 bit (float)
総録音時間	
キャンセル	

6. 入力の種類を設定します。

この機能はDS-DAC-10R専用の機能です。

Line

オーディオ機器のLINE OUTからアナログ信号を入力する場合に選択します。

Phono

アナログ・レコード・プレーヤーのPHONO出力(MMカートリッジ対応)からアナログ信号を入力する場合に選択します。

録音設定	
出力先フォルダー	C:\Users\korgtd\Music
録音ファイル名	Default Prefix Recording
DSD 録音ファイル形式	DSDIFF
PCM 録音ファイル形式	WAV
PCM 録音量子化ビット数	24 bit
録音用フォノ・イコライザーの種類	RIAA
総録音時間	06:00:00.000
入力の種類	Line Phono
キャンセル	

7. 入力の設定が“Phone”の場合はフォノ・イコライザー・カーブ*1を選びます。

フォノ・イコライザーをかけた状態で録音する場合はカーブを選択してください。通常はRIAA*2をお薦めします。再生時にフォノ・イコライザーを選択する場合は“Off”に設定してください。

note フォノ・イコライザーをかけて録音した場合には、あとからイコライザー・カーブの種類を変更することはできませんので、イコライザー・カーブの種類が分からないレコードを録音するときには“Off”で録音してください。

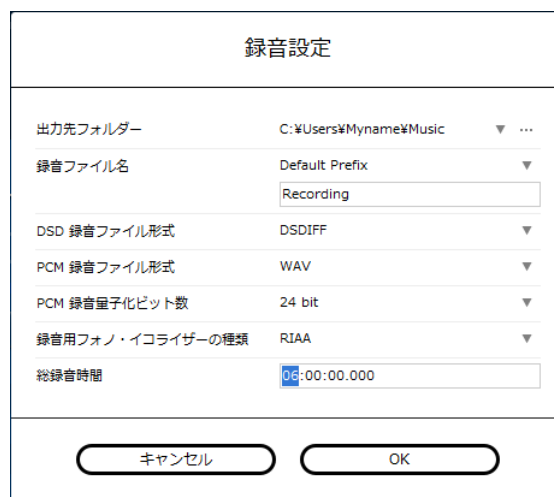


*1 アナログ・レコードのカッティング・マシンは、音の周波数が低くなるにつれ溝の幅を広く刻むため、そのまま針が正確にトレースできない、収録時間が減るなどの問題点があります。そのため、カッティングされたレコードは低域を減衰させ高域を強調して記録されており、再生時に逆特性のカーブで補正します。この補正を行なうものが「フォノ・イコライザー」です。

*2 RIAA はアメリカレコード協会 (Recording Industry Association of America) が定めたレコードの録音、再生カーブの規格です。1954年に規格化されましたが、それ以前のはレコード・レーベルごとに統一性のないものが用いられています。レコードにはカーブの記載がないため、実際にどのカーブを使って録音されたかはわからないのですが、RIAA とその他5種のカーブでほぼ全てをカバーできると言われています。AudioGateで色々なカーブを選んで、音の違いをお楽しみください。

8. 総録音時間を設定します。

設定できる最大時間は6時間になります。



9. OKボタンをクリックします。

録音ファイルの設定を終わります。

録音手順

1. AudioGateのインプット・モニター設定ボタンをクリックします。
インプット・モニター設定ボタンが反転します。



2. アナログ信号を入力して、入力レベルを調整します。
Nu1の入力レベルは、Nu1 Control Panelで設定します。
DS-DAC-10RはAudioGateの入力レベル・スライダーで設定します。
入力レベルの調節は雑音やひずみの少ないきれいな音で録音するために重要です。録音を開始する前に録音するソースのもっともレベルの高いところで、クリップ・インジケータが点灯する直前のレベルに調整します。
⚠ 機器のLine出力をDS-DAC-10Rに接続しているときにPhonoを選択すると、クリップ・インジケータが点灯しなくとも音声はひずんでしまいます。必ず音声をモニターし、正しい設定にしてください。
3. レベル調整が終わったらAudioGateの録音ボタンをクリックして録音を開始します。
インプット・モニター設定ボタンの表示がオフになり、録音ボタンの表示が点灯に変わります。
note ビューワー上部のアーティスト、アルバムの欄が空白になり、タイトルには “Recording_20151121092032” のように録音日時に基づいて自動的に作成されたソング名が表示されます。
録音中は波形表示がありません。経過時間がバーの伸長で表示されます。



4. 録音中にマークを付けるときは、マーク位置でAddボタンをクリックします。
5. 録音を終了するときは、停止ボタンをクリックします。
録音ボタンが消灯します。
録音されたソングは録音を停止した時点で、カレント・ソングとなり、自動的にライブラリとプレイリスト (Recording) に登録されます。登録が済んだ録音済みのソングはそのほかのソングと同様に再生、編集ができます。
6. 録音結果を確認します。
再生ボタンをクリックして再生し、正しく録音できていることを確認します。
note 録音終了後、波形が表示されるまで、しばらくかかります(ソングの長さによる)が再生、編集はすぐにできます(28ページの「ソングの編集」を参照)。

ソングの編集

AudioGateではソングリスト上でソングの分割や結合を行うことができます。

これにより、1つのオーディオ・ファイルから必要な部分のみをエクスポートしたり、連続録音された複数のファイルを1つにまとめてエクスポートしたりすることができます。また、各ソングのゲイン、バランス、フェード、DCカットの設定や、タイトルやアーティスト名などのテキスト情報を変更することもできます。

なお、編集の一部はプレーヤー画面でも行うことができますが、編集画面ではより詳細な変更をすることができます。

note ソングの編集はライブラリやプレイリストのどちらのソングにも共通に反映されます。ただし、ライブラリのソングリストでソングの分割、結合、チャンネル・リンクを行った場合にのみ、プレイリストのソングには反映されません。

カレント・ソングの編集

テキスト情報の編集

カレント・ソングのテキスト情報は以下で編集します。

- ・ **アーティスト、タイトル、アルバム**

プレーヤー画面の添付画像の左右または、編集画面のビューワー上部のソング波形表示の上のテキストを編集します。テキストをクリックすると、編集可能な状態になります。編集後は、Enterキーで確定します。

- ・ **すべてのテキスト情報**

ソング情報の一括変更で編集します(30ページの「ソング情報の一括変更」、32ページの「複数ソングのソング情報の一括変更」を参照)。

note タイトルはエクスポート時の出力ファイル名として使用されます。

▲ ソングにタイトルの情報が無い場合はTitleの欄にファイル名が表示されます。

▲ タイトルには日本語などのマルチバイト文字を入力することができます。ただしMRプロジェクト形式で出力する場合は、英数字を使用してください。

添付画像の変更

プレーヤー画面ではカレント・ソングの添付画像が表示されています。添付画像を変更する場合は、表示されている画像をクリックし、画像ファイルを選択します。

▲ 画像ファイルを添付しただけでは、オーディオ・ファイルに画像は埋め込まれません。そのため、画像ファイルを移動すると、AudioGate上で表示できなくなります。画像を埋め込むには、エクスポート/ディスク書き込みを行ってください。

添付画像を削除する場合は、表示されている画像の上にカーソルを移動し、[×]ボタンをクリックします。

note AudioGate上で添付画像を削除しても、元の画像ファイルは削除されません。

以下の形式の画像を読み込むことができます。

- ・ JPEG、PNG形式の画像ファイル
- ・ AIFF、DSF、MP3、WMA、AAC、Appleロスレス、FLAC形式のオーディオ・ファイルに埋め込まれている画像ファイル

以下の形式で出力する際に、ソングに添付されている画像を埋め込むことができます。

- ・ AIFF、DSF、MP3、WMA、FLAC形式のオーディオ・ファイル
- ・ DSDディスク

コントロール情報の編集

編集画面ではカレント・ソングの各種コントロール情報が表示されています。

ボタンをクリックして、数値はダブルクリックして入力(または上下にドラッグ)することによって、設定値を編集することができます。

この設定は再生時、およびエクスポート時に反映されます。

🔊 コントロール情報の編集はソング波形表示には反映されません。



コントロール情報

項目	方法
Balance (バランス設定)	L100...C...R100の範囲内で、ソングの左右の音量バランスを調整します。ただし、モノラル・ソングのバランスはC(中央)に固定され、変更することはできません。
Gain (ゲイン設定)	-60.0dB~+60.0dBの範囲で、ソングの音量レベル(ゲイン)を設定します。再生時およびエクスポート時にクリップ・インジケータが点灯しないように調整します。
Fade In (フェード・イン設定)	フェード・インに使用するエンベロープの形状と、フェード・イン終了までの時間(0.0秒~20.0秒)を設定します。
Fade Out (フェード・アウト設定)	フェード・アウトに使用するエンベロープの形状と、フェード・アウト終了までの時間(0.0秒~20.0秒)を設定します。
DC Cut (DCカット設定)	通常は“Off”(無効)に設定します。ソングにDC成分が乗っている場合は“On”にして、これを除去することができます。
Phono EQ (フォノ・イコライザー設定)	ソングの再生に使用するフォノ・イコライザーの種類を選択します。
Invert Phase (位相反転設定)	通常は“Off”(無効)に設定します。ソングの位相が反転している場合に、“On”にして位相を合わせることができます。

note 再生時にフォノ・イコライザーを設定して聴いているソングを他のアプリケーションや機器で再生したい場合には、エクスポートをしてください(39ページの「オーディオ・ファイルのエクスポート」を参照)。

ソング情報の一括変更

カレント・ソングのソング情報を編集します。

ソング情報は、テキスト情報(下表参照)、添付画像とコントロール情報(29ページ)を含みます。これらはソング情報の一括変更画面で編集します。

note この情報はエクスポート時に出力ファイルのヘッダーに埋め込まれます。

▲ AAC、Appleロスレス・ファイルへの埋め込みには対応していません。

▲ テキスト情報として使用できるテキストに日本語などのマルチバイト文字を入力することができますが、AIFF、DSF、MP3、WMA、FLAC、DSDディスク以外のフォーマットで出力する場合は、英数字を使用してください。ファイル・フォーマットの制限により、出力時に英数字以外が無視されます。

選択されているソングのテキスト情報や、添付画像をまとめて変更することができます。

1. ソングリスト上の対象となるソングにカーソルを合わせ Title の右側に表示されるコンテキスト・メニュー・アイコンをクリックして[ソング情報の一括変更]を選択します。

メニュー・ボタンをクリックして[情報] - [ソング情報の一括変更]を選択することもできます。



note ソングリスト上でWindowsでは右クリック、Macの場合はcontrol+クリックして[ソング情報の一括変更...]を選択することもできます。

2. ソング情報の一括変更画面内の変更したい項目のテキストをクリックして入力します。



3. 変更したい項目の内容を編集します。

編集した項目は、チェック・ボックスに自動的にチェックが入ります。チェックを外すことで確定します。

テキスト情報

項目名の右のテキスト編集欄をクリックすると、編集可能状態になります(28ページの「テキスト情報の編集」を参照)。

添付画像

添付画像を変更する場合は、表示されている画像をクリックし、画像ファイルを選択します(28ページの「添付画像の変更」を参照)。

コントロール情報(Balance、Gain Fade In、Fade Out、DC Cut、Phono EQ)

ボタンをクリックして、数値はダブルクリックして入力(または上下にドラッグ)することによって、設定値を編集します(29ページの「コントロール情報の編集」を参照)。

ファイル情報

ファイル・パスや録音時に使用したフォノ・イコライザーの種類を確認することができます。

4. OKボタンを押します。

ソング情報の編集画面が閉じられ、編集結果がカレント・ソングに反映されます。

note この情報はエクスポート時に出力ファイルのヘッダーに埋め込まれます。ファイルのフォーマットによって、ヘッダーに埋め込まれる情報のうち読み書きできる項目に制限があります。また「iTunesのソングを追加」を実行した場合には、フォーマットによらずiTunesでサポートしている情報が優先して取り込まれます。

複数ソングのソング情報の一括変更

選択されている複数のソングのテキスト情報、添付画像やコントロール情報をまとめて変更することができます。

1. ソングリスト上のソングをクリックして選択します。
2. Ctrlキー (Macの場合はCommandキー) を押しながら別のソングをクリックし、複数のソングを選択します。
3. 選択したソングにカーソルを合わせ Title の右側に表示されるコンテキスト・メニュー・アイコンをクリックして[ソング情報の一括変更...]を選択します。

メニュー・ボタンをクリックして[情報] - [ソング情報の一括変更...]を選択することもできます。



note Windowsでは右クリック、Macの場合はcontrol+クリックして[ソング情報の一括変更...]を選択することもできます。

4. 変更したい項目の左にあるボタンをクリックし、チェックが入った状態にします。

ソング情報の一括変更

テキスト情報

- タイトル
- アーティスト
- アルバム・アーティスト
- アルバム
- トラック番号
- ディスク番号
- ジャンル
- 録音場所
- 録音日
- 録音時刻

ファイル情報

ファイル・パス

添付画像



Balance C

Gain 0.0 dB

Fade In 0.0 sec

Fade Out 0.0 sec

DC Cut Off

Phono EQ Off

Invert Phase Off

キャンセル OK

5. 変更したい項目の内容を編集します。
30ページの「ソング情報の一括変更」の手順3をご覧ください。
6. OKボタンを押します。
ソング情報の変更画面が閉じられ、編集結果がソング・リストに反映されます。

ソングの分割

カレント・ソングを2つに分割することができます。

ソングを分割すると元のソングはそのまま、ソングリストに分割後の2つのソングが別名で追加されます。

1. ソング再生機能を利用し、分割するポイントまで移動します。

2. Divideボタンをクリックします。

メニュー・ボタンをクリックして[編集] - [分割]で行うこともできます。

ソングリスト上でソングが分割されたことが確認できます。

note テキスト情報やコントロール情報などは、原則として分割後の両ソングに引き継がれます。

The image illustrates the process of splitting a song in a digital audio workstation. It is divided into two parts by a downward-pointing arrow.

Top Screenshot: Shows the software's playback interface. The current track is 'Raimei' with a duration of 11:28. A playhead is positioned at 05:50.847. A callout box points to the playhead with the text '分割ポイントまで移動' (Move to split point). Another callout box points to the 'Divide' button with the text 'クリック' (Click). The 'Divide' button is highlighted.

Title	Time	Artist	Album	Genre	Format
Raimei	11:28	Mt. HIDAHA	Session 2018	Hip Hop	DSDIFF
Recording_20180921163112	51:15				DSDIFF
Sakuranoue	15:11	Shimotakaido	Five	Rock	DSDIFF
Symphony - 1. Allegro	11:28	Yanokuchi	Chamber Orchestra	Classical	DSDIFF

Bottom Screenshot: Shows the software's song list after the split. The original track 'Raimei' is now split into two tracks: 'Raimei.1' (5:50) and 'Raimei.2' (5:37). Callout boxes label these as '前半分割' (Front split) and '後半分割' (Back split) respectively. The playhead is now on 'Raimei.2' at 05:37.

Title	Time	Artist	Album	Genre	Format
Raimei	11:28	Mt. HIDAHA	Session 2018	Hip Hop	DSDIFF
Raimei.1	5:50	Mt. HIDAHA	Session 2018	Hip Hop	DSDIFF
Raimei.2	5:37	Mt. HIDAHA	Session 2018	Hip Hop	DSDIFF
Recording_20180921163112	51:15				DSDIFF
Sakuranoue	15:11	Shimotakaido	Five	Rock	DSDIFF
Symphony - 1. Allegro	11:28	Yanokuchi	Chamber Orchestra	Classical	DSDIFF

ソングの結合

複数のソングを1つのソングにまとめることができます。

ソングを結合すると、元のソングはそのまま、ソングリストに結合後のソングが別名で追加されます。

1. ソングリスト上のソングをクリックし、選択します。
2. Ctrlキー (Macの場合はCommandキー) を押しながら別のソングをクリックし、複数のソングを選択します。



3. 選択したソングにカーソルを合わせ Title の右側に表示されるコンテキスト・メニュー・アイコンをクリックして[結合]を選択します。

メニュー・ボタンをクリックして[編集] - [結合]で行うこともできます。

note Windowsでは右クリック、Macの場合はcontrol+クリックして[結合]を選択することもできます。

ソングリスト上でソングが結合したことが確認できます。



⚠️ コルグMRシリーズで自動分割された連続ファイル以外を結合すると、結合部分にノイズが発生する場合があります。

⚠️ フォーマットの異なるソングを結合することはできません。

⚠️ MP3、AAC、WMA、Appleロスレス (ALAC)、FLACなどの圧縮形式のソングを結合することはできません。

note テキスト情報やコントロール情報などは、原則としてソングリスト上位のものが優先されます。

チャンネル・リンク機能

2つのモノラル・ソングを1つのステレオ・ソングとして扱うことができます。通常は、同じ長さのソングをリンクするのに使用します。

ソングをリンクすると元の2つのソングはそのまま、ソングリストにリンク後のソングが別名で追加されます。

1. ソングリストのソングをクリックし、選択します。
2. Ctrlキー (Macの場合はCommandキー) を押しながら別のソングをクリックし、2つ選択状態にします。



3. 選択したソングにカーソルを合わせ Title の右側に表示されるコンテキスト・メニュー・アイコンをクリックして[チャンネル・リンク]を選択します。

メニュー・ボタンをクリックして[編集] - [チャンネル・リンク]で行うこともできます。

note Windowsでは右クリック、Macの場合はcontrol+クリックして[チャンネル・リンク]を選択することもできます。

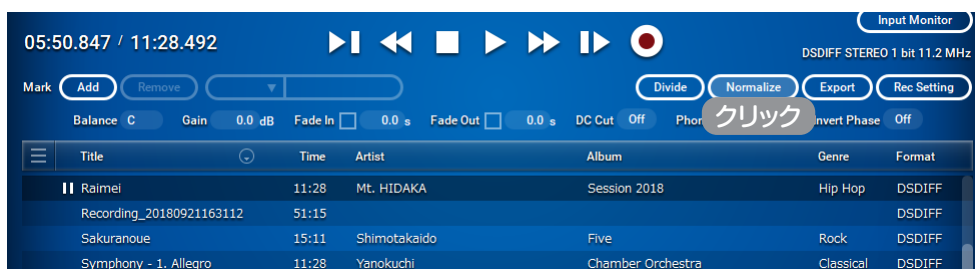
ソングリスト上でソングがリンクされたことが確認できます。



- ⚠ フォーマットの異なるソングをリンクすることはできません。
 - ⚠ MP3、AAC、WMA、Apple ロスレス (ALAC)、FLAC 形式などの圧縮形式のソングをリンクすることはできません。
 - ⚠ 長さの異なるソングをリンクした場合、全体の長さは長い方のソングに合わされます。
- note** テキスト情報やコントロール情報などは、原則としてソングリスト上位のものが優先されます。

ノーマライズ機能

Normalizeボタンを押すと現在のソングに対して最大音量となるようにノーマライズを実行し、ピーク値が0dBを超えないようにソングのコントロール情報のGainに値が設定されます。



ノーマライズの結果はソング波形表示には反映されません。

マーク機能

編集画面では、ソングの時間軸にマークを付けることができます。編集ポイントやライブ曲など曲間の目安などにマークを付けておくと素早く正確にそれらのポジションに移動することができます。録音中にマークをつけることもできます(27ページの「録音手順」を参照)。

マークの読み込み

AudioGateは、以下のマークを読み込むことができます。

- MRプロジェクトに含まれるマーク
- WAV/BWFファイルのCue-points Chunkに含まれるマーク
- DSDIFFファイルのMarker Chunkに含まれるマーク(track startおよびindex)

マークの書き出し

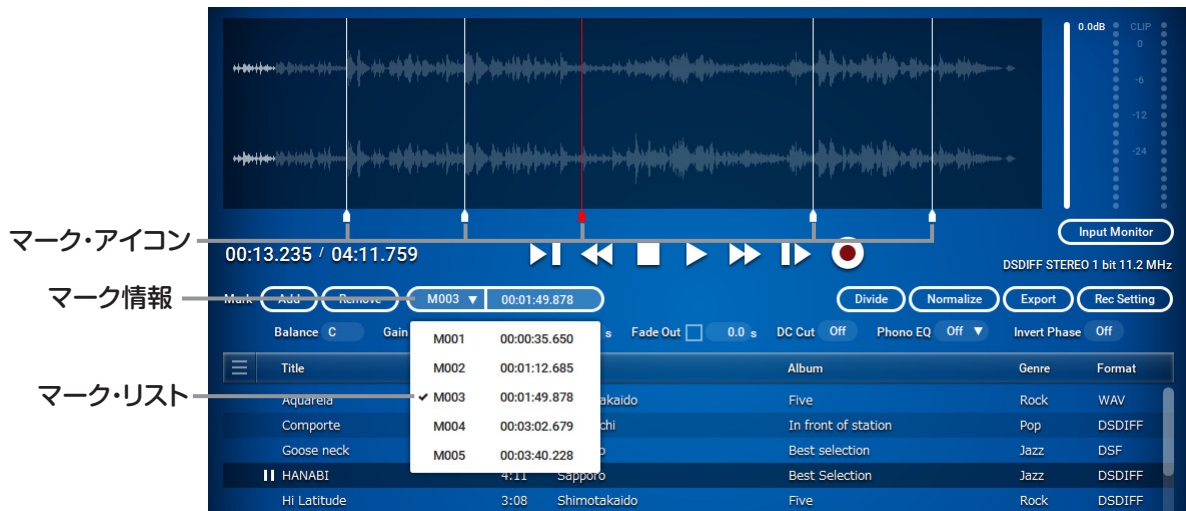
AudioGateは、以下のファイル形式で出力する際にマークを埋め込むことができます。

- MRプロジェクト形式
- WAVおよびBWFファイル
- DSDIFFファイル

マークの編集

マークが登録されているソングでは、マーク情報の番号表示部分をクリックすると、マーク・リストが表示され編集することができます。また、ソング波形表示の時間軸上に、登録済みのマーク・アイコンが表示されます。

マーク情報と赤いマーク・アイコンが現在選択しているマーク・ポジションになります。



操作	方法
マークの選択	マーク・アイコンを(またはマーク・リストで)クリックします。マーク・アイコンが赤く変わり選択状態となり、マーク情報に番号とポジションが表示されます。
マークの追加	Addボタンをクリックすると、カレント・ポジションにマークが追加されます。同じ位置にマークを追加することはできません。
マークの削除	削除したいポジションのマーク・アイコンを(またはマーク・リストで)選択して、Removeボタンをクリックします。
マーク位置の修正	位置を修正したいマークを選択して、表示されるマーク時刻をクリックします。時刻が編集可能状態になるので、キーボードから新たな時刻を入力して、Enterキーで確定します。
カレント・ソング内のすべてのマークを削除	メニュー・ボタンをクリックしてから[編集] - [すべてのマークを削除]を選択します。
カレント・ソングのすべてのマーク位置でソングを分割	メニュー・ボタンをクリックしてから[編集] - [マーク位置で分割]を選択します。

マーク位置への移動

操作	方法
次のマークへ移動	送りボタン(FF)をクリックします。カレント・ポジションを基準に「次のマーク」へ移動します。
前のマークへ移動	戻りボタン(REW)をクリックします。カレント・ポジションを基準に「前のマーク」へ移動します。
指定マークへ移動	マーク・アイコンをダブルクリックします。 マーク情報の「▼」をクリックして、マーク・リストの中から選択します。

その他の便利な機能

編集の取り消し(アンドゥ)

メニュー・ボタンをクリックしてから[編集]－[取り消し]を選択して、最後の編集操作を取り消すことができます。

編集の再実行(リドゥ)

メニュー・ボタンをクリックしてから[編集]－[再実行]を選択して、アンドゥによって取り消された編集操作を再実行することができます。

オーディオ・フォーマットの変換出力

AudioGateでは、ソングリスト上のソングを任意のフォーマットに変換して、オーディオ・ファイルとして出力したり、オーディオCDやDSDディスクを作成することができます。

note AudioGateで対応しているすべてのフォーマットにMRシリーズが対応しているわけではありません。出力したファイルをMRシリーズで再生する場合は、そのMRシリーズが対応しているフォーマットに変換する必要があります。詳しくはMRシリーズの取扱説明書をご覧ください。

オーディオ・ファイルのエクスポート

ソングリスト上の各ソングを、任意のフォーマットに変換して、オーディオ・ファイルやMRプロジェクトとして出力することができます。ソングリスト上のTitleが出力ファイル名として使用されます。

note 再生用のフォノ・イコライザー(Phono EQ)が設定されている場合には、フォノ・イコライザーを通った後の音がエクスポートされます(29ページの「コントロール情報の編集」を参照)。

1. ソングリスト上に出力したいソングがあることを確認して、Exportボタンをクリックします。出力ファイルの設定画面が表示されます。

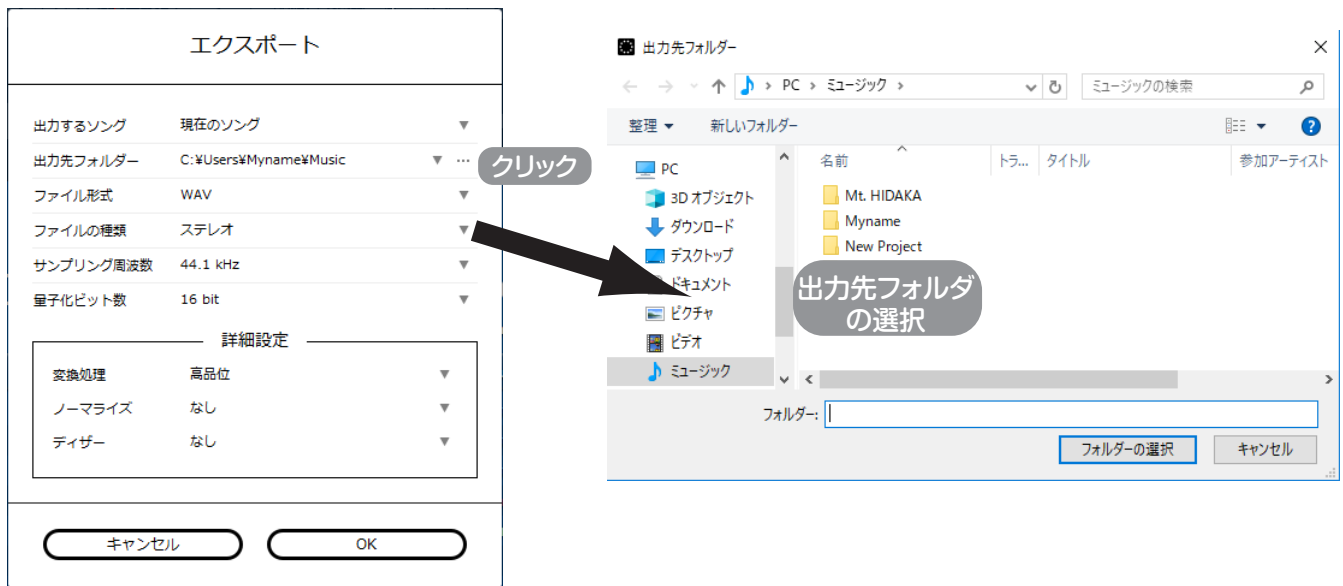


note メニュー・ボタンをクリックして[ファイル] - [エクスポート]を選ぶこともできます。

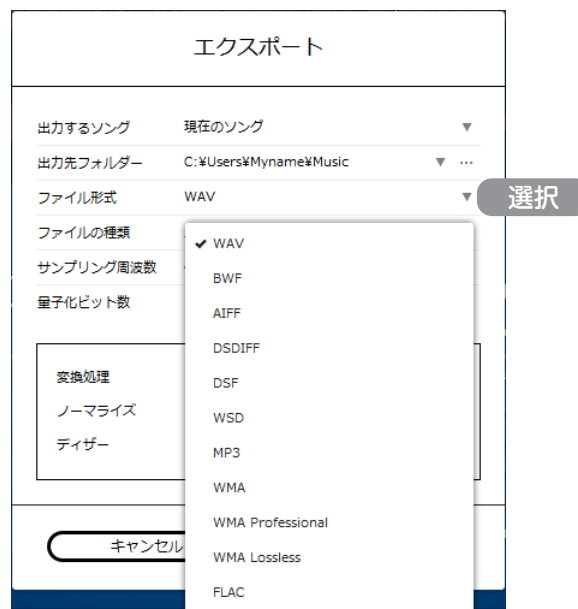
2. 出力するソングを指定します。カレント・ソングをエクスポートする場合は[現在のソング]を、プレイリストを選んでいて、ソングリストのすべてのソングをエクスポートする場合は、[選択されているプレイリスト]を選択します。

エクスポート	
出力するソング	現在のソング ▼ 選択
出力先フォルダー	▼ ✓ 現在のソング ▼ 選択されているプレイリスト
ファイル形式	▼
ファイルの種類	▼
サンプリング周波数	44.1 kHz ▼
量子化ビット数	16 bit ▼
詳細設定	
変換処理	高品位 ▼
ノーマライズ	なし ▼
ディザ	なし ▼
キャンセル OK	

3. 出力先フォルダーの[...]をクリックして、オーディオ・ファイルの出力先フォルダーを指定します。



4. 出力ファイルの形式を設定します。



5. 出力ファイルの種類を設定します。



モノラル/デュアル・モノ

モノラル・ソングはモノラル・ファイルとして、ステレオ・ソングはデュアル・モノ・ファイルとして出力されます。出力されたファイルをDAW等にインポートする際に便利です。

ステレオ

チャンネル・インターリーブされたステレオ・ファイルが出力されます。モノラル・ソングの場合は、LchとRchに同じデータを埋めて、ステレオ化されます。

MRプロジェクト

.prjファイルとオーディオ・ファイルを含むMRプロジェクト・フォルダーが出力されます。巨大なオーディオ・データ(FAT32の制限である4GBを超える)を出力する場合に便利です。AudioGateで編集したマークもMRプロジェクトに埋め込むことができます。

MRシリーズで再生する場合は、MR_PROJフォルダー内の所定位置にコピーしてください。詳しくはMRシリーズの取扱説明書をご覧ください。

6. 出力ファイルのサンプリング周波数と量子化ビット数(またはビットレート)を設定します。



7. 必要に応じて詳細設定(43ページ)を設定します。

8. OKボタンをクリックします。

ファイルの変換出力が開始されます。

エクスポート	
出力するソング	現在のソング ▼
出力先フォルダー	C:\Users\%Myname%\Music ▼ ...
ファイル形式	WAV ▼
ファイルの種類	ステレオ ▼
サンプリング周波数	44.1 kHz ▼
量子化ビット数	16 bit ▼
詳細設定	
変換処理	高品位 ▼
ノーマライズ	なし ▼
ディザ	なし ▼
キャンセル OK	

- ▲ 1bitオーディオ・ファイルには、PCMの上限を超える大きな音が含まれている場合があります。1bitオーディオをPCMに変換する際は、クリップを防止するために、Gainの設定(29ページ)を-3.0dB程度下げる必要がある場合があります。
- ▲ ソングを1bitオーディオ・ファイルに変換出力すると、出力ファイルの末尾に数十ミリ秒の無音信号が付加される場合があります。
- note** 入力ファイルと出力ファイルのサンプリング周波数が同じで、GainとDC Cutの設定(29ページ)がデフォルトの場合、AudioGateは不要な再計算を省いた「ダイレクト出力モード」に切り替わることがあります。「ダイレクト出力モード」動作時は、レベル・メーターが0dBの位置に固定されます。

詳細設定

オーディオ・ファイルのエクスポート時に変換アルゴリズムの細かい設定を行うことができます。なお出力形式によって、設定できる項目が異なります。

変換処理

エクスポート変換処理を以下の2種類から選択することができます。

エクスポート	
出力するソング	現在のソング ▼
出力先フォルダー	C:\Users\%Myname%\Music ▼ ...
ファイル形式	WAV ▼
ファイルの種類	ステレオ ▼
サンプリング周波数	44.1 kHz ▼
量子化ビット数	16 低負荷 ▼ 高品位 ▼
変換処理	高品位 ▼
ノーマライズ	なし ▼
ディザ	なし ▼

キャンセル OK

選択

低負荷:

高速な変換処理と、音質を考慮した変換エンジンを使用します。

高品位:

CPUパワーを使用して、より音質を重視した高品位な変換エンジンを使用します。

note [高品位]を設定した場合、エクスポート時にお使いのコンピューターのCPU使用率が高くなる場合があります。

2.8MHz DSDフィルター

1bit/2.8MHzのソングを176.4kHz、または192kHzのPCMファイルに変換出力する際の、追加フィルターを設定します。

エクスポート	
出力するソング	現在のソング ▼
出力先フォルダー	C:\Users\Myname\Music ▼ ...
ファイル形式	WAV ▼
ファイルの種類	ステレオ ▼
サンプリング周波数	176.4 kHz ▼
量子化ビット数	1 ▼
変換処理	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"><p>なだらかな減衰特性 (-3dB@50kHz)</p><p><input checked="" type="checkbox"/> 急峻な減衰特性 (-3dB@42kHz)</p></div>
2.8MHz DSDフィルター	急峻な減衰特性 (-3dB@42kHz) ▼
ノーマライズ	なし ▼
ディザー	なし ▼

選択

なし

追加フィルターを使用しません。

なだらかな減衰特性(-3dB@50kHz)

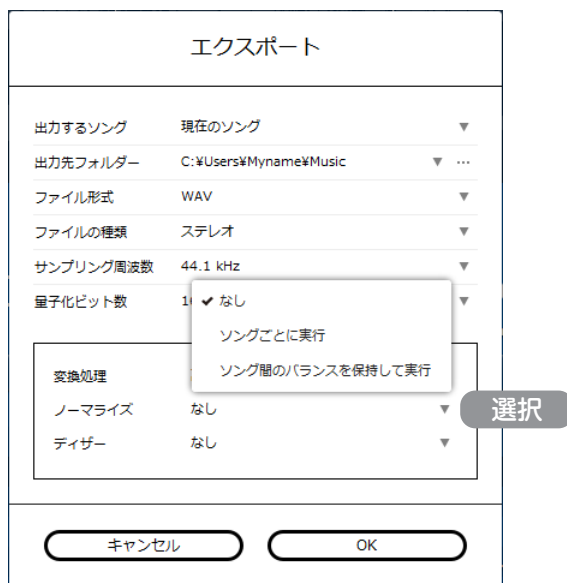
なだらかな減衰特性を持つ低域通過フィルターを適用します。

急峻な減衰特性(-3dB@42kHz)

急峻な減衰特性を持つ低域通過フィルターを適用します。

ノーマライズ

ソングの出力時にノーマライズ(歪まない範囲内での最大音量化)を実行するかどうか設定します。この機能を有効にすると、各ソングのGainが最適な値に自動調整されます。



なし

ノーマライズを実行しません。変換時の音量レベルはソングのコントロール情報のGain設定に従います。

ソングごとに実行

各出力ソングがそれぞれ最大音量となるようにノーマライズを実行します。ソングのコントロール情報のGain設定は完全に無視されます。

ソング間のバランスを保持して実行

全出力ソングの中から最大のピークを見つけ出し、ソング間の音量バランスを保持したままノーマライズを実行します。

ソングのコントロール情報のGain設定は、ソング間のバランスを調整するのに使用されます。

note ノーマライズを実行すると、ファイル出力中に、自動調整されたGainがエクスポート実行中のダイアログ内に表示されます。

note 一般にサンプリング周波数を変換すると、サンプルの補間などが行われるため、ピーク・レベルがオリジナル・データよりも僅かに高くなる場合があります。ノーマライズ前のソングのピーク・レベルが既に0dBに近い場合、Gainが0dB未満に自動設定される可能性があります。

note 1bit オーディオ・データには、PCM の上限を超える大きな音が含まれている場合があります。1bit オーディオをPCMに変換する際にノーマライズを実行すると、Gainが-3.0dB程度に自動設定される場合があります。

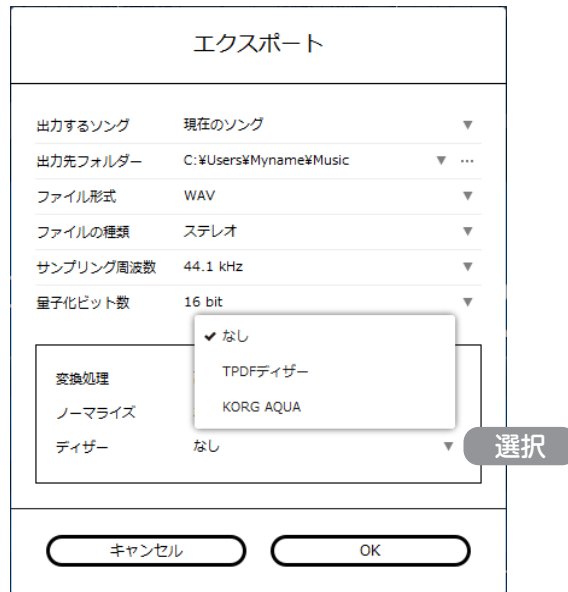
note 1bitオーディオ形式での出力時は0dB-SACDを基準にノーマライズが実行されますが、出力データが基準値を僅かに超える(レベル・メーターの表示が0dBを超える)場合があります。この場合も、1bitオーディオ信号の理論上のクリップ・レベルを遥かに下回っていますので、クリップ・インジケータが点灯しない限り出力データに問題はありません。

ノーマライズ処理が正常に終了すると、エクスポートの終了時に、「ノーマライズ後の音量をソングリストに反映しますか?」というダイアログが表示されます。ここで[反映する]を選択すると、ノーマライズに使用されたGainが各ソングの「コントロール情報」に取り込まれます。

note ノーマライズに使用されたGainを各ソングの「コントロール情報」に取り込み、ノーマライズを[なし]に設定して出力することで、次回以降、処理時間を大幅に短縮することができます。ただし、出力サンプリング周波数を変更すると、出力データのピーク値が僅かに変化してしまうため、再度ノーマライズを実行する必要があります。

ディザー

内部の高精度な演算結果を16/24bitに圧縮して出力する際のディザーを設定します。



なし

内部演算結果を四捨五入して16/24bit化します。ソングの音量が十分に大きい場合は、この設定でも特に問題はありません。

TPDFディザー

一般的な白色性のディザーを適用します。ノイズ・フロアは若干上昇しますが、歪み成分を完全に抑えることができます。

ソング出力後に別のアプリケーションで編集を続ける場合はこちらを選択します。

KORG AQUA

人間の聴感特性を考慮し、重要な帯域での量子化雑音の上昇を抑えることで、より高音質なマスターを出力することができます。

ソングを最終マスターとして出力する場合はこちらを選択するのが効果的です。

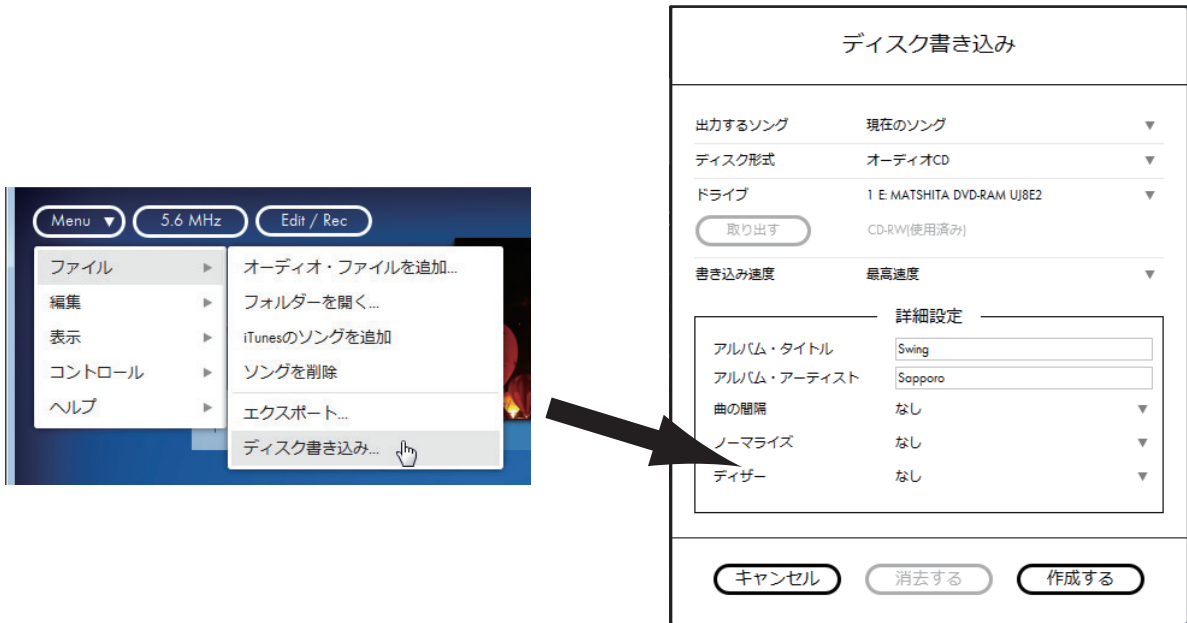
note AudioGateにはディザー処理が不要な場面を自動的に判別する機能が備わっています。ディザーが[TPDFディザー]または[KORG AQUA]に設定されていても、ノイズの増加を極力避けるために、この設定が無視される場合があります。

オーディオCD/DSDディスクの作成

カレント・ソングまたはプレイリスト単位でオーディオCDやDSDディスクを作成することができます。1ソングが、ディスク上の1トラックとして書き込まれます。

ソングのフォーマットとディスクの形式が一致していない場合は、自動的にフォーマット変換した上で、ディスクに書き込まれます。

1. カレント・ソングだけのディスクを作成するときは、メニュー・ボタンをクリックして[ファイル] - [ディスク書き込み...]を選択します。
ディスクの書き込み設定画面が表示されます。



プレイリスト単位でディスクを作成するときは、サイドバー表示ボタンをクリックしてサイドバーを表示させ、プレイリストを右クリック (Mac の場合はcontrol+クリック) して[ディスク書き込み...]を選択することもできます。

ディスクの書き込み設定画面が表示されます。

出力するソングが「現在のソング」になっているときは「選択されているプレイリスト」に変更します。



2. 作成するディスクの形式を選択します。



3. 書込型CD/DVDドライブの一覧から、ディスク書き込みに使用するドライブを選択します。

note DSDディスクを作成する場合は、DVDの書き込みに対応したドライブを選択する必要があります。

4. 3. で指定したドライブに空ディスク、またはリライタブル・ディスク (CD-RW、DVD-RW、DVD+RW) を挿入します。

別ウィンドウ (別アプリケーション) が表示された場合は、そのウィンドウを閉じて終了します。

note オーディオCDを作成する場合は、CD-RまたはCD-RWディスクを挿入する必要があります。

note DSDディスクを作成する場合は、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWのいずれかのうち、ドライブが対応しているものを挿入する必要があります。

5. 使用済みのリライタブル・ディスクを挿入した場合は、消去するボタンをクリックします。
ディスク消去ダイアログが表示されます。



6. 必要に応じてクイック消去をクリックし、チェック・ボックスにチェックを付けます。

クイック消去

ディスクのTOC情報を削除して使用可能な状態にします。高速に処理することができますが、ディスクのオーバーライト性能によってはエラーが多くなる場合があります。ディスクの作成に問題が生じた場合は[完全消去]を実行することをお勧めします。

完全消去(クイック消去チェックを外す)

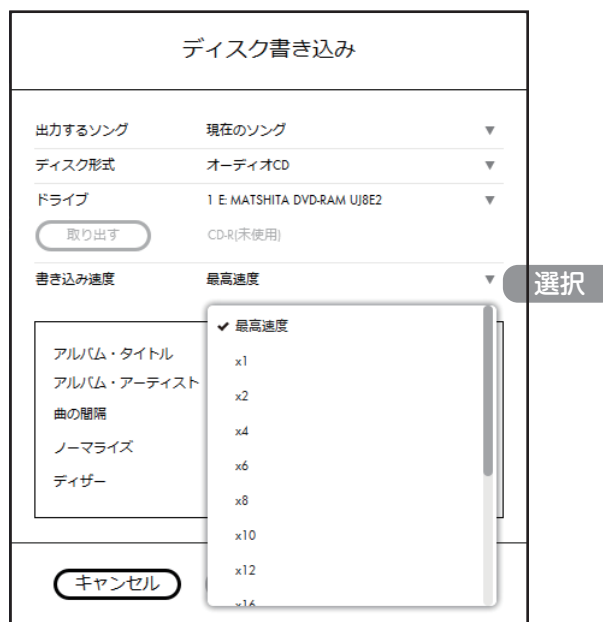
ディスクを完全に消去して使用可能な状態にします。通常、クイック消去よりも処理に長い時間を要します。

▲ 消去を実行すると、ディスク上のデータは全て失われます。処理を途中でキャンセルしたり、アンドゥすることはできません。

7. ディスク消去ダイアログの消去するボタンをクリックしてディスクを使用可能な状態にします。



8. ディスクの書き込み速度を設定します。



9. 必要に応じて詳細設定(51ページ)を設定します。

10. 作成するボタンをクリックします。

ディスク書き込み		
出力するソング	現在のソング ▼	
ディスク形式	オーディオCD ▼	
ドライブ	1 E: MATSHITA DVD-RAM UJ8E2 ▼	
<input type="button" value="取り出す"/>	ディスクが入っていません	
書き込み速度	最高速度 ▼	
詳細設定		
アルバム・タイトル	Swing	
アルバム・アーティスト	Sapporo	
曲の間隔	なし ▼	
ノーマライズ	なし ▼	
ディザー	なし ▼	
<input type="button" value="キャンセル"/>	<input type="button" value="消去する"/>	<input type="button" value="作成する"/>

進捗状況を示すダイアログが表示され、フォーマット変換処理とディスク作成処理が開始されます。

11. ディスクが正常に作成されると、「書き込みが完了しました。もう一枚作成しますか?」というダイアログが表示され、ディスクがイジェクトされます。

12. 同じ内容のディスクをもう1枚作成する場合は空ディスクを挿入して作成するボタンをクリックします。終了する場合には作成しないボタンをクリックします。

詳細設定

ディスクの作成時にディスク名やノーマライズなどの細かい設定を行うことができます。出力形式によって、設定できる項目が異なります。

ディスク書き込み		
出力するソング	現在のソング ▼	
ディスク形式	オーディオCD ▼	
ドライブ	1 E: MATSHITA DVD-RAM UJ8E2 ▼	
取り出す	ディスクが入っていません	
書き込み速度	最高速度 ▼	
詳細設定		
アルバム・タイトル	Swing	
アルバム・アーティスト	Sapporo	
曲の間隔	なし ▼	
ノーマライズ	なし ▼	
デザイナー	なし ▼	
キャンセル	消去する	作成する

ディスク書き込み		
出力するソング	現在のソング ▼	
ディスク形式	DSDディスク [2.8MHz] ▼	
ドライブ	1 E: MATSHITA DVD-RAM UJ8E2 ▼	
取り出す	ディスクが入っていません	
書き込み速度	最高速度 ▼	
詳細設定		
アルバム・タイトル	Swing	
アルバム・アーティスト	Sapporo	
ノーマライズ	なし ▼	
キャンセル	消去する	作成する

アルバム・タイトル

オーディオCD/DSDディスクのアルバム・タイトルを設定します。

この情報はディスクに埋め込まれ、対応プレーヤーで表示させることができます。

note オーディオCD作成時は、CD-TEXTとして書き込まれます。

▲ オーディオ CD 作成時は、英数字を使用してください。またドライブによって、この項目を設定できない場合があります。

アルバム・アーティスト

オーディオCD/DSDディスクのアルバム・アーティスト名を設定します。

この情報はディスクに埋め込まれ、対応プレーヤーで表示させることができます。

note オーディオCD作成時は、CD-TEXTとして書き込まれます。

▲ オーディオ CD 作成時は、英数字を使用してください。またドライブによって、この項目を設定できない場合があります。

曲の間隔

オーディオCDの曲の間隔を設定します。Disc-At-Once対応ドライブでは、曲の間隔を[なし]に設定することで、ギャップレスCDを作成することができます。

▲ ドライブによって、曲の間隔の設定が正しく反映されない場合があります。

▲ ギャップレスCD作成時は、トラックの区切り位置(ソングの分割位置)が最大で1/75秒、前方向に自動調整されることがあります。

ノーマライズ

45ページの「ノーマライズ」を参照してください。

デザイナー

46ページの「デザイナー」を参照してください。

note 再生用のフォノ・イコライザー(Phono EQ)が設定されている場合には、フォノ・イコライザーを通った後の音がエクスポートされます(29ページの「コントロール情報の編集」を参照)。

オート・アップデート機能

AudioGateには、インターネット経由でアップデートを確認する機能が備わっています。お使いのAudioGateを常に最新版に保っておくことで、より高いパフォーマンスと安定性を得ることができます。

アップデートを手動で確認する

1. コンピューターがインターネットに接続されていることを確認し、メニュー・ボタンをクリックしてから【ヘルプ】→【アップデートを確認】を選択します。
[KORG Software Update]が起動します。



2. AudioGateの最新版が見つかった場合は、「install」にチェックが入っていることを確認し、ダウンロード・ボタンをクリックします。
ダウンロードが開始します。

note ダウンロードが完了すると、保存先のフォルダーが表示されます。すぐにインストールする場合は、AudioGateを一旦終了し、インストーラーを起動してください。

アップデートを自動的に確認する

AudioGateの起動時に、アップデートを自動的に確認するように設定することができます。

1. オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。
メニュー・ボタンをクリックしてから [編集] - [環境設定] を選択して表示することもできます。
2. [その他] タブをクリックします。
3. [オート・アップデート] 設定の [アップデートを自動的に確認] にチェックが入っていない場合は、クリックしてチェックを入れます。



これにより以降、AudioGate起動時に最新版が見つかると、上記「KORG Software Update」が起動します。

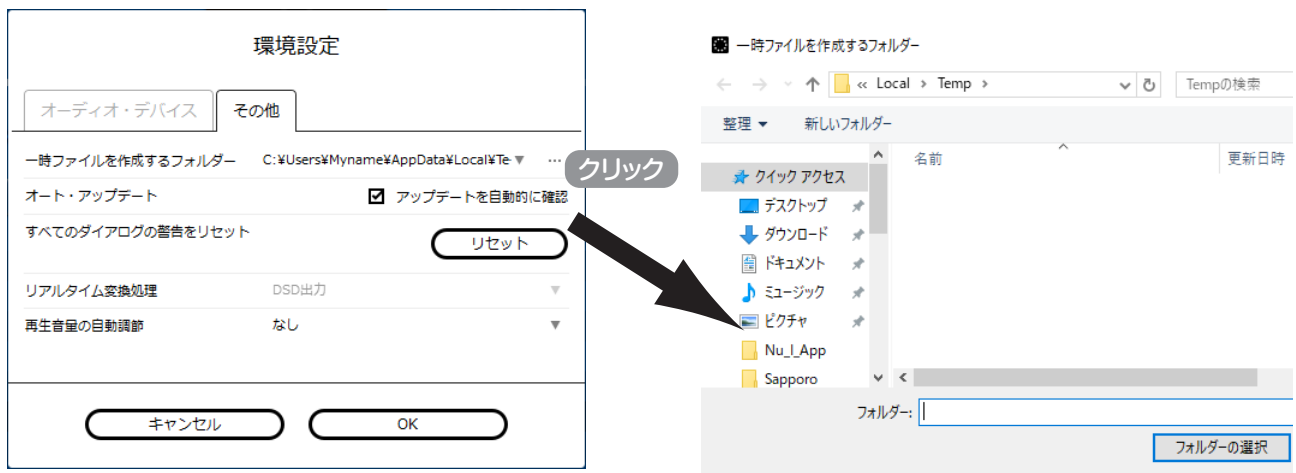
その他の設定

一時ファイルを作成するフォルダーを変更する

AudioGateはディスク作成時やオーディオ・ファイルの追加時に、一時ファイルを作成することがあります。以下の手順で一時ファイルの作成先を変更することができます。

1. オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。
メニュー・ボタンをクリックしてから [編集] - [環境設定] を選択して表示することもできます。
2. [その他] タブをクリックします。
3. [一時ファイルを作成するフォルダー] の [...] をクリックし、フォルダーを選択します。

note 一時ファイルを作成するフォルダーは、残容量の多いハードディスク・ドライブ内に設定することをお勧めします。



すべてのダイアログの警告をリセットする

警告ダイアログの中に「次回からは表示しない」というオプションが存在するものがあります。チェックをオンにすると、以後同じ警告は表示されなくなります。ただし以下の手順で、表示されなくなった警告を再び表示させることができます。

1. オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。
メニュー・ボタンをクリックしてから [編集] - [環境設定] を選択して表示することもできます。
2. [その他] タブをクリックします。
3. [すべてのダイアログの警告をリセット] のリセット・ボタンをクリックします。



リアルタイム変換処理を確認する

現在のリアルタイム変換処理の状態を確認できます。

1. オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。
メニュー・ボタンをクリックしてから[編集] - [環境設定]を選択して表示することもできます。
2. [その他]タブをクリックします。
3. [リアルタイム変換処理]の種類を確認します。
DSDにリアルタイム変換されているときは「DSD出力」、PCMにリアルタイム変換されているときは「PCM出力」と表示されます。



背景の切り替え

ビューワーの背景を切り替えることができます。

1. メニュー・ボタンをクリックしてから[表示] - [背景]を選択します。
2. リストから背景を選択します。



FLACライセンスについて

AudioGateは以下のライセンスに従い、FLACライブラリを使用しています。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

libcurlのライセンスについて

AudioGateは以下のライセンスに従い、libcurlライブラリを使用しています。

Copyright (c) 1996 - 2010, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.

All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" , WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

対応フォーマット

対応ファイル・フォーマット

AudioGateでは、以下の形式のオーディオ・ファイルをインポート/エクスポート(入力/出力)することができます。

	ファイル・フォーマット (拡張子)	Windows		Mac		チャンネル数	サンプリング周波数	量子化ビット数	
		入力	出力	入力	出力				
PCM	WAV(.wav)	○*1	○*1	○*1	○*1	1ch	44.1 kHz、48 kHz、 88.2 kHz、96 kHz、 176.4 kHz、192 kHz、 352.8 kHz、384 kHz	16 bit、24 bit、 32 bit(float)	
	BWF(.wav)	●	●	●	●	2ch			
	AIFF(.aif/.aiff)	●	●	●	●		16 bit、24 bit		
1bit オーディオ	DSDIFF(.dff)	●	●	●	●	1ch	2.8224 MHz、 5.6448 MHz、 11.2 MHz	1bit	
	DSF(.dsf)	●	●	●	●	2ch			
	WSD(.wsd)	●	●	●	●				
不可逆圧縮	MP3(.mp3)	●	○*4	●		1ch	44.1 kHz、48 kHz	-	
	AAC(.m4a)	○*2		●	●	2ch			
	WMA(.wma)	●	●	○*3					
	WMA Professional (.wma)	●	●	○*3		2ch			44.1 kHz、48 kHz、 88.2 kHz、96 kHz
ロスレス圧縮	WMA Lossless (.wma)	●	●	○*3		2ch	44.1 kHz、48 kHz、 88.2 kHz、96 kHz	16bit(44.1kHz時のみ)24bit	
	Apple Lossless [ALAC](.m4a)	○*2		●	●	1ch 2ch			44.1 kHz、48 kHz、 88.2 kHz、96 kHz、 176.4 kHz、192 kHz、 352.8 kHz、384 kHz
	FLAC(.flac)	●	●	●	●				

*1 AudioGate v4.5以降では、32bit 整数 WAVフォーマットのImportに対応(※内部で32bit floatデータに変換)。Exportは32bit 整数 WAVフォーマットには対応していません。

*2 QuickTime 7がインストールされている場合に使用可能。

*3 Flip4Mac WMVがインストールされている場合に対応。

*4 Windows Media Player 10以降がインストールされている場合に対応。

▲ コルグMRシリーズやAudioGate以外で作成したファイルは、正常に読み込めない場合があります。

▲ DRM(デジタル著作権管理)で保護されたオーディオ・ファイルは読み込めません。

対応ディスク・フォーマット

AudioGateは、オーディオCD/DSDディスクの読み込み、および作成に対応しています。

AudioGateで作成できるディスクの形式は以下の通りです。

ディスク・フォーマット		オーディオCD(CD-DA)	DSDディスク
ディスク・メディア		CD-R、CD-RW	DVD-R、DVD-RW、 DVD+R、DVD+RW
収録時間の目安		約74分(700MBメディア使用時)	約100分(4.7GBメディア使用時)
1ディスクに収録可能なアルバム数		1	1
1アルバムに収録可能なトラック数		99	99
1トラックの収録時間	最小	4秒	0秒
	最大	約74分	約100分(4GB)
サンプリング周波数		44.1kHz	2.8224MHz
量子化ビット数		16	1
チャンネル数		2	2
収録可能なメタデータ		CD-TEXT形式(英数字のみ) ・タイトル ・アーティスト名 ※ドライブによって、 収録できない場合があります。	ID3v2.3形式 ・タイトル ・タイトル(読み) ・アーティスト名 ・アーティスト名(読み) ・アルバム名 ・アルバム名(読み) ・アルバム・アーティスト名 ・アルバム・アーティスト名 (読み) ・トラック番号 ・ディスク番号 ・ジャンル ・収録日時 ・添付画像

▲ 2層DVDメディアへの書き込みには対応していません。

▲ オーディオCD/DSDディスクを作成するには、書込型CD/DVDドライブが必要です。

DSDディスクとは

DSDディスクとはDSDを個人で録音・再生できる方式として定義された新しいディスク・フォーマットで、CD-RやCD-RWにオーディオCDを作成するのと同等の手段を、DSDの世界に提供することを目的としています。DSDディスクは、対応プレーヤーで高音質なまま再生することができます。

▲ DSD ディスクはスーパーオーディオ CD とは異なるディスク・フォーマットです。すべてのスーパーオーディオCDプレーヤーでDSDディスクを再生できるわけではありません。

* AudioGateで作成したDSDディスクはソニー株式会社のスーパーオーディオCD/CDプレーヤーSCD-XA5400ES、SCD-XE800、および株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの「プレイステーション3」などで再生確認ができました。なお、SCD-XA5400ESやSCD-XE800で再生できるDSDディスクは、以下の条件を満たしている必要があります。AudioGateではその条件内でDSDディスクを作成する仕様となっています(2010年8月21日現在、コルグ調べ)。

- ・ ディスク: DVD-ROM互換性のあるDVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW
- ・ ファイルの拡張子: dsf
- ・ フォルダーの種類: DSD_DISCフォルダー

- ・ ひとつのファイルの最大容量:4GB以下
 - ・ 音声:2チャンネル
 - ・ ファイル数:1フォルダー内で最大150ファイルまで
 - ・ フォルダー数:1ディスク内で最大200フォルダーまで
 - ・ 階層:8段階まで
 - ・ サンプリング周波数:2.8224MHz
 - * SCD-XA5400ESについての詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.sony.jp/audio/products/SCD-XA5400ES/>
 - * SCD-XE800についての詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.sony.jp/audio/products/SCD-XE800/>
 - * 「プレイステーション」は、株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です。
<http://www.jp.playstation.com/>
 - * “DSD Disc Format” は、ソニー株式会社の商標です。
 - * すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。
- ※ 仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

ショートカット一覧

機能	Windows	Mac
オーディオ・ファイルを追加...	Ctrl + O	Command + O
フォルダーを開く...	Ctrl + Shift + O	Command + Shift + O
ソングを削除	Delete	Delete
エクスポート...	Ctrl + Shift + E	Command + Shift + E
ディスク書き込み...	Ctrl + Shift + B	Command + Shift + B
終了	Ctrl + Q	Command + Q
取り消し	Ctrl + Z	Command + Z
再実行	Ctrl + Shift + Z	Command + Shift + Z
テキストの切り取り	Ctrl + X	Command + X
テキストのコピー	Ctrl + C	Command + C
テキスト貼り付け	Ctrl + V	Command + V
すべてのソングを選択	Ctrl + A	Command + A
すべてのマークを選択	Ctrl + Shift + A	Command + Shift + A
分割	Ctrl + D	Command + D
マーク位置で分割	Ctrl + Shift + D	Command + Shift + D
すべてのマークを削除	Ctrl + Shift + Del	Command + Shift + Delete
結合	Ctrl + J	Command + J
チャンネル・リンク	Ctrl + L	Command + L
ソング情報の一括変更...	Ctrl + Shift + I	Command + Shift + I
環境設定...	Ctrl + ,	Command + ,
マークを追加	M	M
ソング・タイトルを編集	Ctrl + T	Command + T
表示の切り替え	Ctrl + I	Command + I
上のソングを選択	↑	↑
下のソングを選択	↓	↓
選択ソングを再生	Enter	Enter
再生/一時停止	Space	Space
録音/録音一時停止	Ctrl + R	Command + R
ここから再生(From再生)	F	F
ここまで再生(To再生)	T	T
次のマークへ	Ctrl + Shift + →	Command + Shift + →
前のマークへ	Ctrl + Shift + ←	Command + Shift + ←
次のソングへ	Ctrl + →	Command + →
前のソングへ	Ctrl + ←	Command + ←
早送り(FF再生)	→(長押し)	→(長押し)

機能	Windows	Mac
早戻し(REW再生)	←(長押し)	←(長押し)
0.001秒進める	Shift + →	Shift + →
0.001秒戻す	Shift + ←	Shift + ←
0.05秒進める	→	→
0.05秒戻す	←	←
1秒進める	Alt + →	Option + →
1秒戻す	Alt + ←	Option + ←
ダイレクト・ロケート (カレント・ポジションの編集)	G	G

株式会社コルグ

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2

© 2015 KORG INC.

www.korg.com

Published 09/2021